

指定文化財及び登録文化財一覧

指定文化財一覧表

種類	名称	所在地・電話	所有者	指定年月日	摘要	
国指定	重要文化財	八窓庵 (旧舎那院忘筌)	中央区中島公園1番 531-0029	札幌市	昭25.8.29	江戸初期の茶人小堀遠州(1579～1647年)の晩年の作と伝えられる草庵風の茶室。
	〃	豊平館	中央区中島公園1番20号 211-1951	札幌市	昭39.5.26	明治13年に開拓使が建てた洋風建築物で、明治初期のホテル建築の貴重な遺構。
	〃	北海道庁旧本庁舎 (赤れんが庁舎)	中央区北2・3条西5・6丁目 231-4111	北海道	昭44.3.12	明治21年に建てられた米国風ネオ・バロック様式の官庁建築物。
	〃	北海道大学農学部 (旧東北帝国大学農科大学) 第二農場	北区北18・19条西7・8丁目 北海道大学構内 716-2111	国立大学法人 北海道大学	昭44.8.19	明治42年から本道酪農の模範農場として造られた。耕馬舎、穀物庫等全9棟。
	〃	旧札幌農学校演武場 (時計台)	中央区北1条西2丁目 231-0838	札幌市	昭45.6.17	米国中西部建築様式の影響を受けた実用的な建物で、明治11年に開拓使が建築。
	〃	北海道大学農学部 植物園・博物館	中央区北3条西8丁目 北海道大学植物園内 221-0066	国立大学法人 北海道大学	平1.5.19	明治15年建築の博物館本館 同33年建築の博物館事務所 同17年建築の博物館倉庫 同44年建築の植物園門衛所など
	〃	旧開拓使工業局庁舎	厚別区厚別町小野幌 (北海道開拓の村内)	北海道	平25.8.7	明治10年に札幌市街中心部に建設され、昭和54年に北海道開拓の村に創建時の姿で移築された。明治初期の北海道開拓を支えた開拓使工業局の工作場の現存唯一の遺構
	〃	旧札幌控訴院庁舎	中央区大通西13丁目4番地 194 251-0731	札幌市	令2.12.23	大正15年に建てられた札幌軟石を使用した建物。多彩な石加工技術を見ることができる。
	〃	太刀銘国俊	—	個人所有	昭8.1.23	山城国粟田口の刀鍛冶、国俊作の太刀。刃文は甘美ではないが鍛えが優れており、古来名刀として名高い。
	〃	刀無銘伝来国行	—	個人所有	昭31.6.28	その作風と優れた技量からみて来派の作と鑑定されるもので、国行の作と見られる健全な名刀。
	重要有形民俗文化財	カラフトナヨロ惣乙名文書 (ヤエンコロアイヌ文書)	北区北8条西5丁目 北海道大学附属図書館 706-2994	国立大学法人 北海道大学	令1.7.23	カラフト西岸ナヨロの惣乙名(複数村落の統括者)をつとめたアイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群。
	重要無形民俗文化財	アイヌのまるきぶね	中央区北3条西8丁目 北海道大学植物園 北方民族資料室内 221-0066	国立大学法人 北海道大学	昭32.6.3	シイク・トヨタリケ氏によって、大正末期に製作。
	重要無形民俗文化財	アイヌ古式舞踊	南区小金湯27 札幌市アイヌ文化交流センター(保護団体事務局) 596-1610	札幌ウポポ保存会	平6.12.21 (保護団体指定)	アイヌの人々に伝承されている芸能。
	史跡	開拓使札幌本庁舎跡および旧北海道庁本庁舎	中央区北2・3条西5・6丁目 231-4111	北海道	昭42.12.15	明治6年10月に建築された開拓使札幌本庁舎跡。
〃	琴似屯田兵村兵屋跡	西区琴似2条5丁目 621-1988	札幌市	昭57.5.7	明治7年に建設された北海道最初の屯田兵村の兵屋跡で兵屋番号133番。	
天然記念物	円山原始林	円山 563-6111(石狩森林管理署)	林野庁	大10.3.3	海拔226mの山で390種の植物分布がみられる。	
〃	藻岩原始林	藻岩 563-6111(石狩森林管理署)	林野庁	大10.3.3	414種の冷温帯の豊富な植物分布がある。海拔531m。	

道指定	有形文化財	琴似屯田兵屋	西区琴似1条7丁目 琴似神社境内 621-5544	琴似神社 (管理琴似屯田保存会)	昭39. 10. 3	明治8年に入植した北海道最初の屯田兵村の兵屋の1棟で、兵屋番号140番の遺構。
	"	札幌市 K-446 遺跡出土の遺物	中央区南22条西13丁目 札幌市埋蔵文化財センター 512-5430	札幌市	昭55. 8. 12	擦文時代の土器、土製支脚、紡錘車の合計17個。
	"	旧永山武四郎邸	中央区北2条東6丁目2番地 232-0450	札幌市	昭62. 11. 27	第2代北海道庁長官永山武四郎の私邸で、明治10年代に建築された和洋折衷の住宅。
	"	新琴似村 屯田兵村記録	北区北8条西5丁目 北海道大学附属図書館 706-3956	国立大学法人 北海道大学	平28. 3. 31	北区新琴似地区に入植した屯田兵の明治中期～昭和初期の自治活動に関する記録。
市指定	有形文化財	清華亭	北区北7条西7丁目 746-1088	札幌市	昭36. 6. 7	札幌最初の公園「借楽園」に明治13年貴賓接待所として建築。
	"	新琴似屯田兵中隊本部	北区新琴似8条3丁目 765-3048 (現地管理人) 761-4205 (新琴似まちづくりセンター)	札幌市	昭49. 4. 20	明治19年に新琴似屯田兵村の本部として建築されたもので、遺番所(中隊本部)としては札幌に残る唯一のもの。
	"	旧黒岩家住宅 (旧簾舞通行屋)	南区簾舞1条2丁目 596-2825	札幌市	昭59. 3. 28	明治5年に有珠新道の交通の要所となるミソマップ(簾舞)に建築されたもので、札幌における通行屋の唯一の遺構。
	"	木造日蓮聖人坐像	中央区南11条西9丁目 豊葦山妙心寺 511-7634	豊葦山 妙心寺	昭56. 7. 21	彩色寄木造りで、僧日住が厄除けのため寛文6年(1666年)に造立させたもの。
	"	旧琴似川流域の堅穴 住居跡分布図	中央区南22条西13丁目 札幌市埋蔵文化財センター 512-5430	札幌市	平16. 8. 25	明治27・28年頃高畑宜一氏により作成された、市内都心部から北区麻生町付近までの擦文時代(約1300年～800年前)の堅穴住居跡の窪みを約720カ所記録した分布図。
	"	札幌市 N30 遺跡出土品	中央区南22条西13丁目 札幌市埋蔵文化財センター 512-5430	札幌市	平16. 8. 25	平成7・8年に、西区二十四軒4条1丁目で発掘調査した縄文時代後期から晩期(約3700～2300年前)の出土品(1,413点)。縄文時代晩期末の墓からは、土偶やサメの歯も出土。
	"	札幌独立キリスト 教会文書	中央区大通西22丁目 札幌独立キリスト教会 641-3522	札幌独立 キリスト教会	平28. 7. 28	クラーク博士起草の「イエスを信ずる者の契約」等、明治初期の文書計7点。
	無形文化財	丘珠獅子舞	東区丘珠(保持団体住所)	丘珠獅子舞 保存会	昭49. 10. 25	明治25年に富山県からの移住者によって伝えられ、伝承してきた獅子舞。
	史跡	手稲山口バツタ塚	手稲区手稲山口324-308	札幌市	昭53. 8. 21	明治16年にトノサマバツタの大群を駆除するために、大量の卵のうを埋めた畝状の塚跡。
有形文化財 及び史跡	札幌村・大友亀太郎関係 歴史資料及び史跡	東区北13条東16丁目 札幌村郷土記念館 782-2294	札幌市	昭62. 2. 20	慶応2年(1866年)、札幌村は大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料及び役宅跡。	

令和4年4月1日現在

登録文化財一覧表

名 称	所在地・電話	所有者	登録年月日	摘 要
北海道大学古河記念講堂 (旧東北帝国大学農科大学 林学科教室)	北) 北9条西7丁目 北海道大学構内 716-2111	国立大学法人 北海道大学	平9. 9. 3	明治42年に建てられた、 フランス・ルネサンス風の 木造建築物。
北星学園創立百周年記念館 (旧北星女学校宣教師館)	中) 南4条西17丁目 891-2731	北 星 学 園	平10. 9. 2	大正15年、スイス人建築家 ヒンデルが実施設計し建て た洋風建築。
日本基督教団札幌教会 (旧札幌美以教会堂)	中) 北1条東1丁目 221-2444	札 幌 教 会	平10. 9. 2	明治37年に建てられた、ロ マネスク風の教会建築。
北海道知事公館 (旧三井クラブ)	中) 北1条西16丁目 611-4221	北 海 道	平11. 10. 14	昭和11年に三井家札幌別邸 新館として建てられた、ハー フティンバーの洋館。
杉野目家住宅	中) 南19条西11丁目	個 人 所 有	平11. 10. 14	昭和8年に建てられた、 チューダー様式による集中暖 房住宅。
北海道大学農学部博物館 バachelor記念館	中) 北3条西9丁目 北海道大学植物園内 221-0066	国立大学法人 北海道大学	平12. 4. 28	明治31年建築のバachelor 博士の旧宅を移築した、総 2階建、全面下見板張の洋館。
北海道大学附属植物園庁舎 (旧札幌農学校動植物学教 室) ※ 現 宮部金吾記念館	中) 北3条西8丁目 北海道大学植物園内 221-0066	国立大学法人 北海道大学	平12. 4. 28	明治34年建築、昭和17年 に建物の一部を移築したもの。 木造2階建。
北海道大学旧札幌農学校 昆虫及養蚕学教室	北) 北9条西8丁目 北海道大学構内 (問合わせ) 北大交流プ ラザ「エルムの森」 706-4680	国立大学法人 北海道大学	平12. 4. 28	明治34年に建てられた、 I字型平面を持つ木造平屋建の 建物。
北海道大学旧札幌農学校 図書館読書室	北) 北9条西8丁目 北海道大学構内 716-2111	国立大学法人 北海道大学	平12. 4. 28	明治35年に建築された、 T字型平面を持つ木造平屋建の 図書館閲覧棟。
北海道大学旧札幌農学校 図書館書庫	北) 北9条西8丁目 北海道大学構内 716-2111	国立大学法人 北海道大学	平12. 4. 28	明治35年に建築された、 煉瓦造2階建、切妻造りの 倉庫建築。
エドウィン・ダン記念館 (旧北海道庁真駒内種畜場 事務所)	南) 真駒内泉町1丁目 581-5064	札 幌 市	平12. 9. 26	明治20年建築。下見板張、 寄棟造で、正面中央の玄関及び 屋根窓は切妻造。
旧西岡水源池取水塔	豊) 西岡公園内	札 幌 市	平13. 8. 28	明治42年に建築された水道施 設の遺構の一部。
黒田家住宅 (主屋・蔵・表門・石塀)	中) 南13条西7丁目	黒 田 合 資 社	平22. 9. 10	大正13~15年に建築された大 正末の地域の建築事情を知る 上で貴重な住宅。
沼田家住宅旧第二りんご倉庫	豊) 西岡4条10丁目	個 人 所 有	平24. 8. 13	昭和28年建築。整った意匠が 特徴の煉瓦造倉庫。
柳田家住宅旧りんご蔵	豊) 平岸2条5丁目	個 人 所 有	平24. 8. 13	大正後期に建てられた、草創期 の煉瓦造りんご貯蔵庫。煉瓦造 2階建て。
遠藤家住宅 (主屋・蔵・南石蔵・北石蔵・ 表門・塀)	中) 南6条西5丁目	個 人 所 有	平26. 10. 7	大正8年頃建築。札幌軟石と煉 瓦の塀で囲まれ、洗練された意 匠を持つ近代和風建築。
札幌市旧三菱鉱業寮	中) 北2条東6丁目 232-0450	札 幌 市	令1. 9. 10	三菱鉱業株式会社が昭和12年 頃に旧永山武二郎邸に附設す る形で福利厚生施設として増 築した洋館。

令和4年4月1日現在

5 札幌市所有文化財の管理及び活用状況

令和4年4月1日現在

文化財の名称	管理状況	活用の形態	開館時間 休館日（年末年始休除く）	観覧者数(人)			対前年比% (R3/R2)
				令和元年度 ※1	令和2年度 ※2	令和3年度 ※3	
旧札幌農学校演武場 (時計台)※1	指定管理者による 管理運営	一般公開の他、講演会・音 楽会・会議場等として活用	一般公開 8:45~17:10 ホール使用 17:30~21:00 ※年末(12/29~31)開館	244,752 ホール使用 21,105	82,017 ホール使用 6,010	89,648 ホール使用 9,026	109.3 ホール使用 150.2
豊平館	指定管理者による 管理運営	日中は一般公開、夜間は貸 室として多目的に活用	一般公開 9:00~17:00 貸室使用 17:00~22:00 第2火曜日(祝日の場合は翌日)	21,062	19,548	16,394も誤りで、 正しくは、15,070	77.1
八窓庵 (旧舎那院忘筌)	警備清掃を業者委託	4月下旬~11月初旬まで一 般公開(外観見学のみ)	9:00~17:00 左記期間中無休	7,526	4,799	1,946	40.6
琴似屯田兵村兵屋跡	警備清掃を業者委託	一般公開(5月~9月に菜園 事業を実施)	9:00~16:00 無休	5,626	4,091	2,540	62.1
札幌市 K-446 遺跡出土の遺 物	埋蔵文化財センター で保管・管理	埋蔵文化財センター展示室 で一般公開(不定期)	8:45~17:15 祝日(5/3~5、11/3は開館)				
旧永山武四郎邸	指定管理者による 管理運営	一般公開、隣接している旧 三菱鉱業寮は貸室として多 目的に活用	一般公開 9:00~22:00 第2水曜日(祝日の場合は翌日)	43,185	28,325	19,277	68.1
清華亭	警備清掃を業者委託	一般公開	9:00~17:00 無休	7,786	2,804	1,953	69.7
新琴似屯田兵中隊本部	警備清掃を地元の保 存会に委託	屯田兵資料を展示し、一般 公開(4月~11月)	10:00~16:00 火・木・土曜日のみ開館 12~3月は閉館	2,598	1,416	731	51.6
旧黒岩家住宅 (旧簾舞通行屋)	管理運営を地元の保 存会に委託	札幌の通行屋の唯一の遺構 を一般公開	9:00~16:00 月曜日(祝日の場合は翌日) 祝日の翌日	2,802	1,572	509	32.4
旧札幌控訴院 (札幌市資料館)	指定管理者による管 理運営	一般公開の他、貸室として 多目的に活用	一般公開 9:00~19:00 月曜日(祝日の場合は翌日)	129,170	58,423	61,632	105.5
旧琴似川流域の堅穴住居跡 分布図	埋蔵文化財センター に展示	埋蔵文化財センター展示室 にレプリカを展示し、一般 公開	8:45~17:15 祝日(5/3~5、11/3は開館)				
札幌市 N30 遺跡出土品	埋蔵文化財センター に展示	埋蔵文化財センター展示室 に出土品の一部を展示し、 一般公開	8:45~17:15 祝日(5/3~5、11/3は開館)				
手稲山口バツタ塚	職員による定期的な 巡回警備	一般公開	8:00~17:00 山口緑地の公開 時間に同じ(冬季閉鎖)				
札幌村・大友亀太郎関係 歴史資料及び史跡	札幌村郷土記念館に 保管し、管理を地元保 存会に委託	札幌村郷土記念館に展示し て一般公開	10:00~16:00 月曜日(祝日の場合は翌日も) 祝日の翌日	4,074	1,358	846	62.3
合計				468,581 ホール 21,105	204,353 ホール 6,010	194,152 ホール 9,026	95.7 ホール 150.2

※1 令和元年度3月1日から3月31日まで新型コロナウイルス感染症の影響の為休館。

※2 令和2年度4月14日から5月31日まで新型コロナウイルス感染症の影響の為休館。

※3 令和3年度5月4日から7月11日、7月23日から9月30日まで新型コロナウイルス感染症の影響の為休館。

札幌市内郷土資料館等一覧

令和4年4月1日現在

	名称	所在地 連絡先	休館日等 開館時間	敷地 所有（所管）	建物 所有（所管）	設置年月日	管理状況	収蔵数	令和3年度 入館者
1	手稲記念館	西区西町南 21 丁目 661-1017	火・木・日・祝・年末年始 9:00～17:00（展示室）	2,598 m ² 文化部	鉄筋コン造 1 階建 （一部木造）690 m ² 文化部	昭和 44 年 12 月	札幌市（文化部） 展示室：手稲記念館管理運営委員会委託 会議室・講堂：同委員会へ貸付	1,126 点	217 人 （5～9 月休館）
2	札幌村郷土記念館	東区北 13 条東 16 丁目 782-2294	月（祝日の場合は翌日も休館）・ 祝日の翌日・年末年始（12 月 29 日～翌年の 1 月 5 日）10:00～16:00	553 m ² 文化部	鉄骨造 2 階建 266 m ² 文化部	昭和 52 年 4 月	札幌村郷土記念館保存会 館長 1 名（市指定文化財の管理 については委託している。）	2,761 点	846 人 （5～9 月休館）
3	つきさつづ郷土資料館	豊平区月寒東 2 条 2 丁目 854-6430	4～11 月の水・土のみ開館 10:00～16:00	423 m ² 文化部	レガ造 2 階建 （一部木造） 359 m ² 文化部	昭和 60 年 6 月	月寒地区町内会連合会 当番 数名	約 4,000 点	700 人 （5～9 月休館）
4	簾舞郷土資料館	南区簾舞 1 条 2 丁目 旧黒岩家住宅内 596- 2825	月（祝日の場合は翌日）・祝日の 翌日・年末年始 9:00～16:00	600 m ² 文化部	木造 1 階建の一部 99 m ² 文化部	昭和 61 年 4 月	旧黒岩家住宅保存会 当番 1 名	1,024 点	509 人 （5～9 月休館）
5	新琴似屯田兵中隊本部	北区新琴似 8 条 3 丁目 新琴似屯田兵中隊本部内 765-3048	4～11 月の火・木・土のみ開館 10:00～16:00	新琴似神社	木造 1 階建 197 m ² 文化部	昭和 49 年 4 月	新琴似屯田兵中隊本部保存会 当番 1 名	243 点	731 人 （5～9 月休館）
6	あしりべつ郷土館	清田区清田 1 条 2 丁目 清田区民センター内 885-0869	水・土のみ開館 10:00～16:00	6,001.73 m ² 清田区	鉄筋コン造 2 階建の 一部 258.68 m ² 清田区	昭和 58 年 5 月	あしりべつ郷土館運営委員会 当番 1 名	1,600 点	339 人 （5～9 月休館）
7	屯田郷土資料館	北区屯田 5 条 6 丁目 屯田地区センター内 772-1811	月・年末年始 13:00～16:00	3,088 m ² 北区	鉄筋コン造 2 階建の 一部 396 m ² 文化部	昭和 63 年 11 月	屯田郷土資料館運営委員会 当番 1 名	1,328 点	730 人 （5～9 月休館）
8	福住開拓記念館	豊平区福住 1 条 4 丁目 福住まちづくりセンター併設	土・日・祝（9 月 15 日を除く）・ 年末年始 8:45～17:15	551 m ² 地域振興部	木造 2 階建の一部 120 m ² 文化部	昭和 53 年 9 月	福住三六会 まちづくりセンター職員が兼任	833 点	— （カウント無）
9	平岸郷土史料館	豊平区平岸 3 条 9 丁目 812-2493	日・祝・年末年始 8:45～18:00	子ども育成部	鉄筋コン造 1 階建の 一部 168 m ² 子ども育成部	昭和 57 年 9 月	児童会館 児童会館職員が兼任	435 点	62 人
10	篠路烈々布郷土資料館	北区百合が原 11 丁目 757-2407	開館日は電話にて要確認 9:00～17:00	870 m ² 地域振興部	木造 2 階建（町内会 館）の一部 34 m ² 烈々布町内会	昭和 57 年 11 月	烈々布会 烈々布会館管理者が兼任	333 点	— （カウント無）
11	定山溪郷土博物館	南区定山溪温泉東 4 丁目 定山溪小学校内 598-2012	11 月～4 月 9:00～16:00	小学校敷地内 教育委員会	木造平屋建 展示面積 140 m ²	昭和 57 年 5 月 平成 18 年 4 月 リニューアル開館	定山溪観光協会（カードキー貸出） 博物館運営委員会（地元有志）	約 1,000 点	0 人 休館中
12	琴似屯田歴史館資料室	西区琴似 2 条 7 丁目 西区役所分庁舎 2 階 614- 8245	月・水・金のみ開館 （祝日を除く） 10:00～16:00	594.04 m ² 西区	鉄筋コン造 2 階建の 一部 82.23 m ² 西区	平成 7 年 4 月	NP0 法人札幌郷土文化推進センター 当番 1 名	約 2,000 点	40 人 10 月末より開館 水のみ
13	白石郷土館	白石区南郷通南 1 丁目 白石区複合庁舎内 861-2405（区総務企画課）	土・日・祝・年末年始 （区役所と同じ） 8:45～17:15	4251.31 m ² 白石区	鉄筋コン造地下 2 階地 上 7 階建の一部 75 m ² 白石区	平成 28 年 11 月	白石ふるさと会 管理人の常駐なし	約 70 点	— （カウント無）

令和3年度 事業報告書

協議会名 札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会

1 協議会の運営

令和3年度において、会議を4回（うち1回臨時会議）開催（第1回及び第3回会議は新型コロナウイルス感染症感染拡大を防止するため書面会議）し、協議会が推進する事業の進捗状況の確認、事業に関するアドバイザーからの意見聴取及び会員による意見交換、文化財の保存・活用等に関する市民意見の共有等を行った。

会議	開催日程、場所	内 容
臨時	開催日程(書面会議): 令和3年4月19日 ※ 議題提出通知日	議案: 令和3年度収支予算変更 令和3年4月22日付けですべての議案の議決が得られた。
令和3年度 第1回	開催日程(書面会議): 令和3年7月20日 ※ 議題提出通知日	議案: (1) 令和2年度事業報告 (2) 令和2年度収支決算報告 報告: 「札幌市歴史文化のまちづくり推進事業」及び 「札幌市歴史文化の観光拠点づくり推進事業」 企画支援及び実施業務(中間報告) 令和3年7月30日付けですべての議案の議決が得られた。
令和3年度 第2回	開催日程: 令和3年10月29日 開催場所: 札幌市建設局用地担当部 会議室	議案: 令和3年度関連文化財群及びストーリーの設定 について 報告: (1) 令和3年度事業の進捗状況について (2) 令和4年度ふるさと納税の寄附金を用いた 新規事業について
令和3年度 第3回	開催日程(書面会議): 令和4年3月17日 ※ 議題提出通知日	議案: (1) 令和4年度事業計画(案)について (2) 令和4年度収支予算(案)について 令和4年3月17日付けですべての議案の議決が得られた。

2 令和3年度事業実績

地域計画に従い、文化財の価値や魅力を伝える新たなコンテンツとして、市内の様々な文化財を共通のテーマで結び付けた「関連文化財群」と、その魅力を発信する「ストーリー」を、市民の意見を踏まえながら設定した（「縄文文化」「札幌オリンピック」の2テーマ）。

また、文化財・歴史文化を観光等に生かす取組の推進として、文化財の掘り起こしと、観光・まちづくりへの活用を目指して下記の各種事業を行った。

(1) 市民ワークショップ

<p>開催日時・場所</p>	<p>開催日程: ・第1回 令和3年8月22日 ・第2回 令和3年8月28～29日 ・第3回 令和3年9月11日</p> <p>開催方法:オンライン開催</p>
<p>内 容</p>	<p><概要> 文化財や歴史文化を街の魅力資源として守り、生かすための取組としての「関連文化財群とストーリーの設定」に向けた意見交換を行うワークショップを、ZOOMによりオンライン開催した。 多様な年代や立場の方々に参加してもらい、札幌市の歴史文化を様々な視点から魅力的に伝え、活用する方法等について意見交換を行った。 また、ワークショップや現地調査を通じて、一般市民と札幌の歴史文化に詳しい個人や歴史文化に関わる活動を行う団体などが接する場としても機能し、参加者の歴史文化への興味や理解を深める機会となった。</p> <p><参加人数> 16名(応募18名)</p> <p><事業風景></p> 

(2) ボランティアガイド講習会

<p>開催日時・場所</p>	<p>開催日程:令和3年 12月 18日、19日 開催場所:北海道建設会館、中島体育センター</p>
<p>内容</p>	<p><概要> 観光案内時に文化財などの紹介を行う観光ボランティア等を対象として札幌市の文化財や歴史文化に関する講習会を実施した。 参加者の知識や経験、興味に合わせた講座を選択できるように「歴史文化の知識と理解を深める講座」「コミュニケーション力アップ講座」の2種類の講座を実施した。 内容は、「歴史文化の知識と理解を深める講座」では縄文文化、札幌オリンピックの2つのテーマについてのポイント解説、ストーリーのつながりや魅力について紹介し、「コミュニケーション力アップ講座」ではガイド体験も盛り込んだ。</p> <p><参加人数> 歴史文化の知識と理解を深める講座 43名 コミュニケーション力アップ講座 39名</p> <p><募集チラシ、配信画面></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

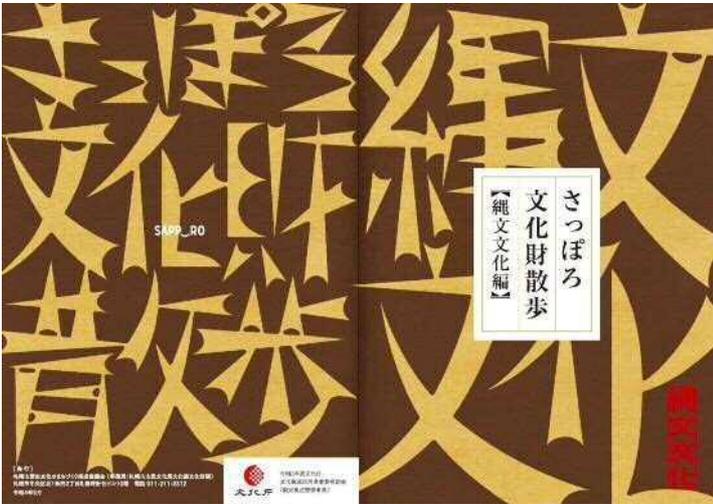
(3) 文化財モニターツアー

開催日時	令和3年10月24日 15:00～18:00
内容	<p><概要> 当協議会で設定した関連文化財群及びストーリーである開拓使に関連する建物や地形などの足跡が残る、中島公園とその周辺をガイド付きで歩き、豊平館で明治時代の洋食を模したメニューを提供し、ツアーの終わりには案内人によるコースの振り返りを行った。</p> <p>また、将来的な旅行者等による商品化など、ツアー実施を民間事業として自走化につなげるため、今回のモニターツアーのコース・内容について参加者アンケートを行ったほか、旅行業関係者へのヒアリングを行った。</p> <p>各意見や調査結果を参考に、今後のツアー事業の展開を検討する。</p> <p>参加人数:16名</p>    

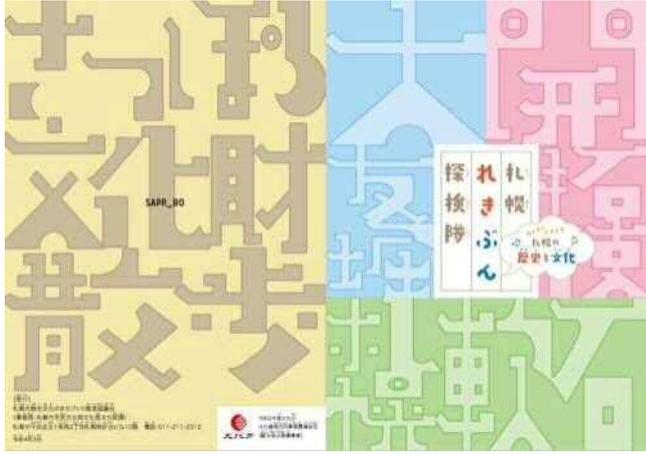
(4) シンポジウム「さっぽろ れきぶんフェス」

<p>開催日時・場所</p>	<p>開催日程:令和4年2月 15～26 日 開催場所:出張パネル展 札幌駅前通地下広場(チカホ)北1条イベントスペース東 シンポジウム オンライン開催</p>
<p>内容</p>	<p>概要: 札幌市の文化財や歴史文化の価値及び魅力を周知・啓発する以下のプログラムを実施した。</p> <p>(1) 出張パネル展 さっぽろ れきぶんフェス2022に先駆け、オンライン講座の告知や札幌市の文化財、文化財保存の取り組み等を紹介するパネルを展示した。</p> <p>(2) シンポジウム ①オンライン講座内容 a. 講演 ア 講演1 テーマ「縄文時代から学ぶ今の暮らし方」 / 榊田朋広氏 (札幌市埋蔵文化センター職員) イ 講演2 テーマ「札幌の都市史を振り返る」 / 森朋子氏 (札幌市立大学准教授) ウ 講演3 テーマ「オリンピックを散歩する」 / 和田哲氏 ((株)あるた出版編集者、街歩き研究家)</p> <p>b. パネルディスカッション ア テーマ「札幌の文化財の楽しみ方・生かし方」 イ 登壇者 ・コーディネーター: 神長敬氏 (NPO法人歴史的地域資産研究機構) ・パネラー: 森朋子氏、和田哲氏、榊田朋広氏、鈴木宏一郎氏 ((株)北海道宝島旅行社代表)</p> <p>参加人数:申し込み人数67人、配信視聴者数43人</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">     </div>

(5) 関連文化財群等のPR及び構成文化財等の周遊促進一般向けパンフレット製作

<p>開催日時・場所</p>	<p>令和4年3月発行 A5版・8ページ製本(各 2,000 部製作) 縄文文化編、札幌オリンピック編</p>
<p>内容</p>	<p>令和3年度に市民ワークショップにおける市民意見を踏まえて設定した関連文化財群及びストーリーを生かした市内文化財の周遊促進につながるパンフレットを作製した。</p> <p>それぞれの関連文化財群及びストーリーのほか、「文化財トリビア」として、手に取った方が現地に足を運んでみたくなるような情報も一部盛り込んで製作した。</p> <p>各パンフレットは市内文化財施設、観光関連施設等への配置を行った。</p> <p><縄文文化></p>  <p><札幌オリンピック編></p> 

(5) 関連文化財群等のPR及び構成文化財等の周遊促進子ども向けパンフレット製作

開催日時・場所	令和4年3月発行 A5版・36ページ製本(2,000部製作) 札幌れきぶん探検隊
内容	<p>令和2年度に市民ワークショップにおける市民意見を踏まえて設定した関連文化財群等を題材に、おおむね小学校4年生から6年生の子どもが読むことを想定し、わかりやすく札幌の文化財や歴史文化の価値や魅力が伝わる内容の日本語パンフレットを作成した。</p> <p>各パンフレットは、市内文化財施設、観光関連施設等への配置を行った。</p> 

令和4年度「札幌市歴史文化のまちづくり推進事業」及び「札幌市歴史文化の観光拠点づくり推進事業」 企画支援及び実施業務 各事業実施内容

1 市民ワークショップの開催

(1) 事業内容

文化財の掘り起こしと観光等への活用について意見交換を行うワークショップ。ワークショップで出た意見は、別途、協議会が設定する「関連文化財群」と「ストーリー」の内容に反映する。

令和3年度は「札幌オリンピック、縄文文化」の2テーマで実施。令和4年度は「都心で楽しむ季節の催し、積雪寒冷地に成立した大都市」を予定。

(2) 実施時期

6～8月の間に2回以上

2 モニターツアーの実施

(1) 事業内容

札幌の文化財や歴史文化を観光資源として磨き上げ、さらなる活用機会を創出するため、関連文化財群等をコンテンツに用いたまち歩きなど、来札観光客等が気軽に楽しめるツアーを企画、実施する。実施結果を踏まえて、将来的な旅行事業者等による商品化に向けた検証等も行う。

(2) 実施時期

8～11月の間に1回

3 ボランティアガイド講習会の開催

(1) 事業内容

観光客等に札幌の文化財や歴史文化の価値や魅力を伝える役割を担うボランティアガイドを支援するため、ガイドの知識技能の向上及び登録者数の増につながる講習会等を開催する。

(2) 実施時期

8～12月の間に2回以上実施

4 シンポジウム（さっぽろれきぶんフェス）の開催

(1) 事業内容

文化財や歴史文化を観光やまちづくりの資源として広く活用する取組をテーマに、講演やパネルディスカッション等を行う。併せて、会場において、札幌の文化財や歴史文化の価値と魅力を紹介する展示や、これらを楽しめる体験コーナー等を設け、文化財・歴史文化について広く周知・啓発する機会とする。

(2) 実施時期

12～2月の間に1回

5 関連文化財群等のPR及び構成文化財等の周遊促進パンフレット制作

(1) 事業内容

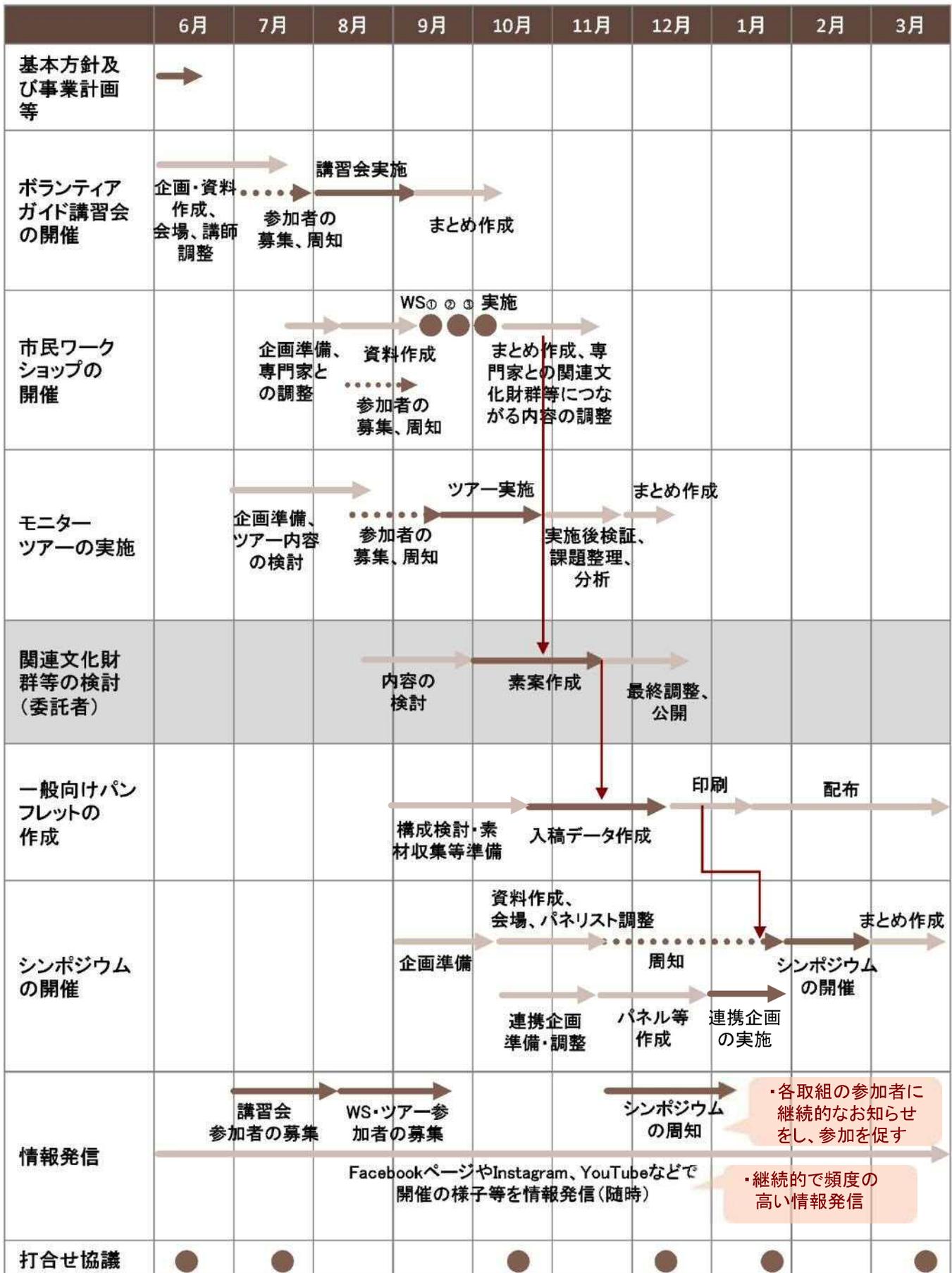
令和4年度に協議会が設定する関連文化財群等を題材に、来札観光客等に向けその魅力を発信し、構成文化財等の周遊を促すパンフレットを製作する。

(2) 配布時期

1～3月頃を予定

各事業の取組が相乗効果を生むような実施順と、委託者との十分な調整を行いながら余裕をもって取り組むことのできるスケジュールとします

本業務は、各取組を以下のようなスケジュールで進めます。

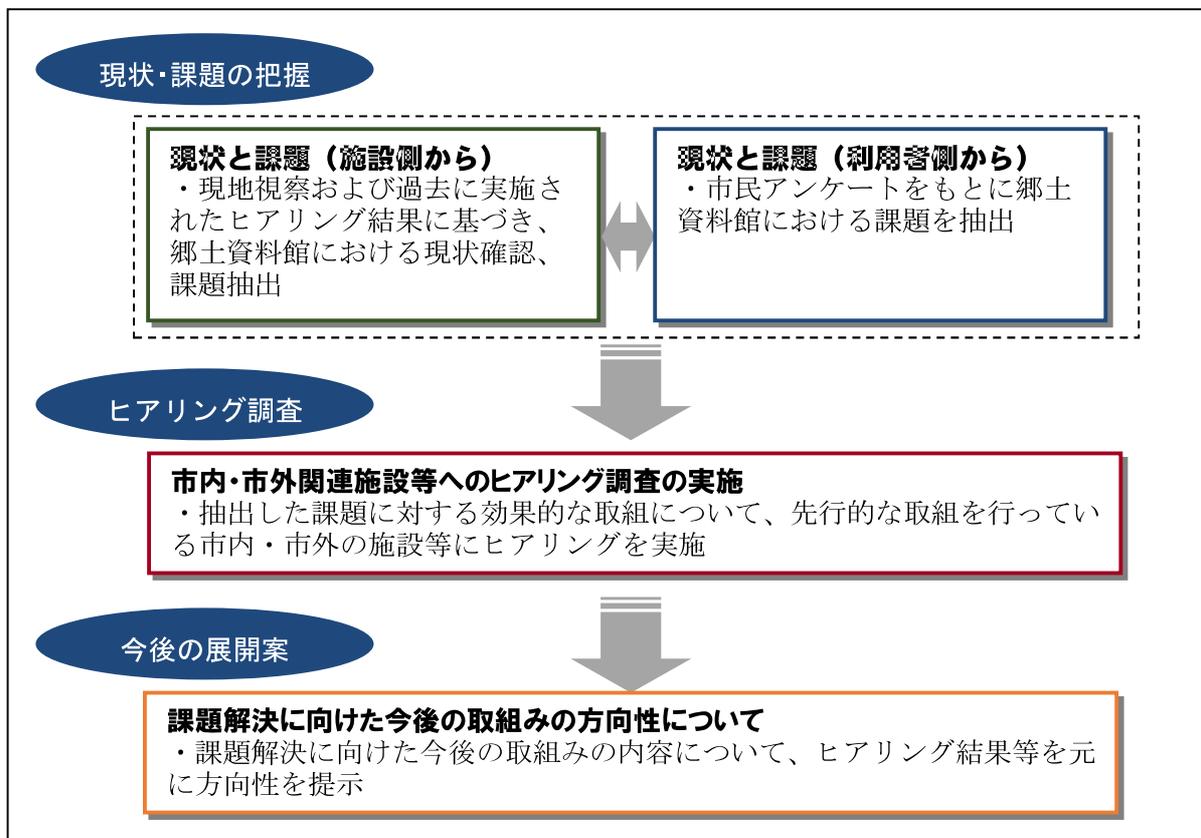


I 業務概要

1. 業務の目的

- 札幌市が建物または土地を所有している郷土資料館（計 13 施設）では、地域の保存団体等が主体的に管理を行っているケースが多く、地域に根差した文化・歴史の伝承や周知啓発を行っている。
- しかしながら、禁煙いずれの郷土資料館でも、入館者数の低迷や、建設当初に整備された展示物の入れ替えが行われていないことによる内容の陳腐化、管理運営に関わる保存団体等の高齢化による担い手不足等、様々な課題を抱えている。
- 本業務では、過去札幌市で実施した市民・各郷土資料館へのアンケート及び各郷土資料館へのヒアリング結果を基に抽出した課題について、参考事例を調査し、各地域の文化・歴史の効果的な発信方法、及び各郷土資料館の入館者の増加や担い手不足解消に資する効果的な取組を調査検討するとともに、将来的に札幌市がどのように取り組んでいくことが求められるのか、方策を整理するものである。

2. 調査の構成



II 札幌市の郷土資料館の現状と課題

1. 現状と課題（施設側から）

- 札幌市の郷土資料館に関し施設自体について、また、施設側から見た現状と課題について現地視察及び過去に行われたアンケート、ヒアリングなどをもとに整理した。ここでは札幌市が所有、管理する 13 施設を対象とする。
- 札幌市内の郷土資料館は、地域の歴史を伝える場所として昭和 45 年頃～63 年頃に建設されたものが多い。（平成以降は 2 件、最も新しい白石郷土館は平成 28 年の複合庁舎建設に伴い開設）
- 区民センター、まちづくりセンターなど他の公共施設と併設されているものが約半数、建物自体が指定文化財となっているもの（新琴似屯田兵中隊本部、簾舞郷土資料館など）もある。
- 全館無料で見学が可能。開館日、開館時間は施設によって異なっている。
- 来館者数は最も多い施設で 4,000 名程度、少ない施設で 100 名程度となっている（令和元年度）。
- 次頁に 13 の施設ごとの設立経緯、現状（収蔵品数、運営体制、来館者数、建物、施設の特徴、特色のある展示）と考えられる課題についてまとめている。
- 建設から年数が経ち、多くの施設で施設や展示の維持管理に関すること、また、施設の管理体制等が課題となっている。

モノ 建物や設備、展示に関すること

- 建物（建物そのもの、設備など）、展示ケース等の老朽化
- 展示資料の経年劣化、破損等
- 展示内容の更新ができない、行われたい
- 展示スペースの狭さ、収蔵スペースがなく寄贈を受けられない



ヒト 運営体制やスタッフに関すること

- 運営メンバーの高齢化（維持管理作業の負担等）
- 防犯に関する不安（1人体制が多く目が行き届かないなど）
- 展示物の手入れ等に関するノウハウの継承
- 他の施設等との交流の少なさ

■ 札幌市郷土資料館 各館の概要・データ・特徴・課題等

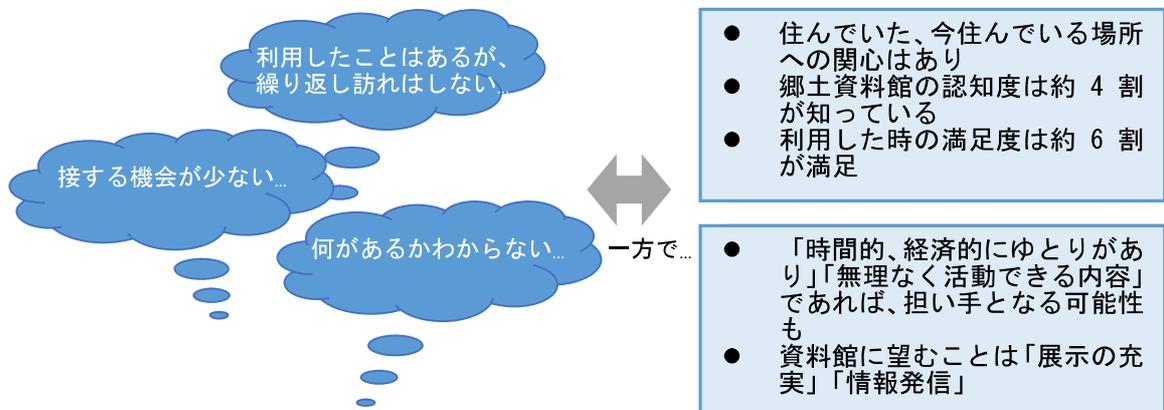
No.	名称	施設の中核・概要	基本情報	収蔵品数・内容	運営体制・活動内容	来館者数(令和元年度)	建物	特徴	特色ある展示 ^{※1}	考えられる課題 ^{※2}
1	手箱記念館	手箱記念館は、手箱町と札幌市の合併を記念して昭和44年に開設。は主に手箱の開拓当時の様子や、今日に至るまでの郷土の歴史を解説したコーナー、手箱通商からの出土品や古文書、生活用品などの歴史資料が多数展示されている。また、併設された講堂やホールは、地域の人たちに開放され、コミュニティー活動や憩いの場として使われている。	住所: 西区西町南21丁目3-10 電話: 011-661-1017 休館日: 火、木、日、祝、年末年始 開館時間: 9:00~17:00 アクセス: 地下鉄東西線「宮の沢」5番出口から約560m	約1,130点	札幌市(文化庁) 展示室: 手箱記念館管理運営委員会委託 企画室: 同委員会へ貸付	481人	昭和44年12月設置 鉄筋コンクリート2階建(一部木造) 690㎡ 文化庁	- 広い展示スペース - 地域の歴史(手箱金山など)を伝える展示多い(手作りのファイルなどもあり充実) - 展示品の数が多い	手箱金山に関する資料(鉱石、レポート)	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の樹木の手入れ 展示スペースの老朽化 展示物の更新状況 展示物の更新状況 展示物の更新状況
2	札幌村郷土記念館	大友亀太郎は、徳川幕府の役人として札幌村の開拓を手を付けた。また、用水路(大友堀)を掘り進めこの地の基礎を作る一方、農地開発の計画や入植者の記録も多く残した。これらの資料は、霧まつり当初の記録の様子を知り記録として大変貴重なものであり、札幌市指定有形文化財に指定。亀太郎の役宅があった場所は札幌市指定史跡に指定され、今は札幌村郷土記念館が建てられている。亀太郎関連文書その他、地域の特産物である玉ねぎ関係の資料も展示。	住所: 東区北13条東16丁目2-6 電話: 011-782-2294 休館日: 月・祝日の場合は翌日(月休館) 祝日の翌日、年末年始(12月29日~翌年の1月5日) 開館時間: 10:00~16:00 アクセス: 地下鉄東豊線「環状通」4番出口から約350m	約2,760点	札幌村郷土記念館保存会 館長1名(市指定文化財の管理)1名、年々委託している	4,074人	昭和52年4月設置 鉄骨造2階建 268㎡ 文化庁	- 展示物の充実(大友亀太郎関連資料:市指定文化財) - 歴史的建築物としての価値の高さ(さっぽろふるさと文化百選) - 場所の興味深い(かつてのフシコ川との接続、木造の建設計画) - 管理団体の熱心な活動(フォーラム等の開催、各種資料等の収集、ネットワーキング(大友亀太郎の子孫など)つながり)	大友亀太郎関連資料(市指定文化財)	<ul style="list-style-type: none"> 冷暖房設備の老朽化 防火に関する不安 展示の更新について 建物の維持管理の持続可能性 運営体制の継続性 展示スペースの狭さ(これ以上の資料展示等は厳しい状況) 駐車場確保(現在は隣接建物の駐車場利用)
3	つきさつふ郷土資料館	豊平区の月寒地区には旧陸軍の施設や史跡が多く残っている。この記念館は、もともと旧陸軍北部軍司令官官邸として昭和16年に建てられたもので、赤いレンガの建物特徴。戦後は北海道大学の学生寮として使用されたが、昭和60年につきさつふ郷土資料館として開設。旧歩兵第25連隊をはじめ旧陸軍資料が数多く展示されている。	住所: 豊平区月寒東2条2丁目3-9 電話: 011-854-6430 開館日: 4~11月の水、土のみ 開館時間: 10:00~16:00 アクセス: 地下鉄東豊線「美園」3番出口から約1,090m	約4,000点	月寒地区町内会連合会 当番 数名	2,612人	昭和60年6月設置 (建物は昭和16年建築) 359㎡ 文化庁	- 歴史的建築物としての価値の高さ(さっぽろふるさと文化百選) - 場所の特徴 - 地域の歴史を伝える拠点(情報集積場所としての役割) - テーマ性の高い展示	旧陸軍関連資料(樋口幸一郎司令官関連資料など)	<ul style="list-style-type: none"> 建物の構造上展示スペースに限られる 場所の時間がかかる 建物の維持管理の持続可能性 公開施設の少なさ(火、土のみ)
4	旧舞踊士資料館	旧舞踊士行屋は、「有珠通(本願寺道路)」の開通に合わせて、明治5年、旅行者などの宿泊・休憩施設として開設された。その後、農業者3代にわたる住宅として使用されたが、昭和59年に札幌市が譲り受けた。現在の建物は、通商であった旧棟(左半分)と新棟(右半分)からできている。新棟は、馬小屋や納屋など当時の開拓農家の様子や農具の歴史資料が展示されており、郷土資料館として一般公開されている。	住所: 南区舞舞1条2丁目4-15 電話: 011-596-2825 休館日: 月・祝日の場合は翌日、祝日の翌日、年末年始 開館時間: 9:00~16:00 アクセス: じょうつバス「旧舞踊士行屋」または「東舞舞」※ 旧黒岩家住宅内	約1,020点	旧黒岩家住宅保存会 当番 1名	2,802人	昭和61年4月設置 (建物は明治5年建築) ※ 札幌市指定文化財木造1階建の一部 99㎡ 文化庁	- 歴史的建築物としての価値の高さ(市指定文化財、旧舞踊士行屋) - 場所の興味深い - 地域住民の関わり(巡回リなど建物維持管理等ボランティア取組み)	旧舞踊士行屋関連資料	<ul style="list-style-type: none"> 建物の維持 メンバーの高齢化 建物自体の維持管理も含めた持続可能性 運営体制の継続性
5	新琴似屯田兵中隊本部	屯田兵の組織は、全体をいくつかの大隊に分け、そのひとつの大隊をさらにいくつかの中隊に分け、という構造になっていた。この新琴似には、屯田兵第1大隊第3中隊があり、この建物はその隊の本部として建てられたもので、1階建てだが、天井の上は三角屋根の部屋になっている。建物の中では、当時の屯田兵のジオラマや、中隊長の服など、屯田兵まつる資料が展示されている。	住所: 北区新琴似8条3丁目1-8 電話: 011-765-3048 開館日: 4~11月の火、木、土のみ 開館時間: 10:00~16:00 アクセス: JR 新琴似駅から約500m	約240点	新琴似屯田兵中隊本部 保存会 当番 1名	2,598人	昭和49年4月設置 (建物は明治19年建築) ※ 札幌市指定文化財木造1階建 197㎡ 文化庁	- 歴史的建築物としての価値の高さ(市指定文化財) - テーマ性の高い展示(屯田兵) - ジオラマ等わかりやすい展示	当時の屯田兵のジオラマ	<ul style="list-style-type: none"> 建物の維持管理の持続可能性
6	あしりべつ郷土館	平成14年1月に清田区民センターの新設にあわせて移転。清田はかつて「あしりべつ」と呼ばれていた。その歴史を館名として残している。清田地区で発掘された大昔の土器など考古資料や、開拓当時の生活道具から現在に至るまでの歴史資料が年代順に展示。	住所: 清田区清田1条2丁目5-35 電話: 011-005-0989 開館日: 水、土のみ 開館時間: 10:00~16:00 アクセス: 中央バス「清田小学校」から約520m ※ 清田区民センター内	約1,600点	あしりべつ郷土館運営委員会 当番 1名	630人 (6~3月休館)	昭和58年5月 鉄筋コンクリート2階建の一部 258.68㎡ 清田区	- 広い展示スペース - 地域の歴史(地形や地区の成り立ち)を伝える展示多い(パネル等) - 各種歴史資料(本やファイル)された紙資料等が充実している	アシリベツの成り立ち(パネル展示)	<ul style="list-style-type: none"> 展示資料の老朽化 管理運営の費用負担 交通の利便性の低さ(公共交通)
7	屯田郷土資料館	現在、札幌市内で屯田兵の屯田が地名となって残っているのは、北区屯田といわれるこの地域だけ。屯田の地名は、篠路屯田兵村の名残といえる。屯田郷土資料館は、昭和63年10月に屯田兵による開拓100年の歴史を記念して開設。館内には、実物大の屯田兵の家屋が再現され、内部の土間やいろりなどによって、入植当時の屯田兵の生活をうかがい知ることが出来る。	住所: 北区屯田5条6丁目3-21 電話: 011-772-1811 休館日: 月・年末年始 開館時間: 13:00~16:00 アクセス: 中央バス「屯田5条7丁目(児童会館)」から約200m ※ 屯田地区センター内	約1,330点	屯田郷土資料館運営委員会 当番 1名	483人 (4~12月休館)	昭和63年11月設置 鉄筋コンクリート2階建の一部 396㎡ 文化庁	- 広い展示スペース(再現家屋など) - テーマ性の高い展示(屯田兵) - 場所の興味深い(屯田地名) - 地域住民の関わり(屯田兵子孫)	実物大の屯田兵屋(再現家屋)	<ul style="list-style-type: none"> 暖房設備が不十分 展示物の手入れに経験の少なさ 運営体制の継続性
8	福住開拓記念館	福住地区の開拓の歴史は、明治の初めに岩手県からの入植者によって始まった。当初六軒村と呼ばれていたが、昭和19年に現在の福住という地名で呼ばれるようになった。福住開拓記念館は、開拓当時の生活の様子を描いた版画70点と、むかしの馬車や農機具など多数の展示物がある。この記念館は昭和40年に開設したが、その後、平成9年に現在の福住まちづくりセンターに併設された。	住所: 豊平区福住1条4丁目13-17 電話: 011-855-6615 休館日: 土、日、祝、年末年始 開館時間: 9:45~17:15 アクセス: 地下鉄東豊線「福住」3番出口から約1,000m ※ 福住まちづくりセンター併設	約930点	福住三六会 まちづくりセンター-職員が兼任	-	昭和53年9月設置 木造2階建の一部 120㎡ 文化庁	- 場所の興味深い - 地元の小中学生の関わり(絵など)の展示 - 地域としての情報発信(地下鉄駅等)あり(150年)	厳島神社関連展示(広島との関連)	<ul style="list-style-type: none"> 清掃などをやるメンバーの高齢化 展示スペースの少なさ やや入りにくい雰囲気(鍵を開けてもらわないと入れない)
9	平岸郷土資料館	平岸地区は、明治4年に岩手県からの開拓移民が入植し開拓された。この年から数えて110年目にあたる昭和57年に、平岸郷土資料館が児童会館の併設で開設。東山、平岸が主山道筋から掘り出した土器や石器などの埋蔵品展示物248点と435点の収蔵品が展示。また、平岸はかつてリンゴの産地として名を馳せたところで、リンゴ栽培などの農機具や当時の様子などがわかる展示物が見学できる。	住所: 豊平区平岸3条9丁目15 電話: 011-812-2493 休館日: 月・祝、年末年始 開館時間: 9:45~18:00 アクセス: 地下鉄南北線「平岸」3番出口から約600m ※ 平岸児童会館内	約440点	児童会館 児童会館職員が兼任	107人	昭和57年9月設置 鉄筋コンクリート1階建の一部 168㎡ 子ども育成部	- 広い展示スペース - 地域の歴史(リンゴ栽培の歴史など)地区の成り立ち)を伝える展示多い(実物資料、パネル等)	リンゴ栽培の歴史資料	<ul style="list-style-type: none"> 交通の利便性の低さ(公共交通) 利用状況
10	篠路烈々布郷土資料館	烈々布(シツペツ)という地名はアイヌ語が語源とされているが、今は地名としては残っていない。かつての珠珠村、札幌村、篠路村がその地域であったといわれている。篠路烈々布郷土資料館の開設は、この地域に福井県、富山県などからの開拓移民が入植してから100年目の年にあたる昭和57年。館内にはいろいろな文書や古文書のほか、篠路地区に古くから伝わる、民俗芸能の篠路獅子舞や篠路歌舞などの資料が展示されている。	住所: 北区百合が原11丁目194 電話: 011-757-2407 開館日: 電話にて要確認 開館時間: 9:00~17:00 アクセス: JR 百合が原駅から約870m	約330点	烈々布会 烈々布会館管理人が兼任	-	昭和57年11月 木造2階建(町内会館)の一部 34㎡ 烈々布町内会	- 場所の興味深い(地名との関連) - 民俗芸能に関する展示の充実	篠路歌舞伎、篠路獅子舞関連資料	<ul style="list-style-type: none"> 展示設備の老朽化 建物の老朽化 施設の入りにくさ(電話にて開館日確認はややハードルが高い)
11	定山溪郷土博物館	この博物館は、重要文化品などこの地域で入手した実物資料など約1000点が分類展示されている。定山溪の歴史とともに歩んできた資料を「生」、「温泉・観光」、「農業」などのテーマに分類して展示しているほか、定山溪の歴史を知ることができる音声解説付きの「クイズ」展示、定山溪の自然を紹介するコーナーなどを設けている。	住所: 南区定山溪温泉東4丁目308 電話: 011-598-2012 休館日: 11月~4月 開館時間: 9:00~16:00 アクセス: じょうつバス「定山溪温泉前」から約350m ※ 定山溪小学校敷地内	約1,000点	定山溪観光協会(カードキー貸出) 博物館運営委員会(地元有志)	149人	昭和57年5月設置 平成18年4月リニューアル開館 木造平屋建 展示面積140㎡	- 旧定山溪小学校を活用 - 定山溪の歴史(温泉、定鉄の歴史など)を伝える展示	定山溪の歴史資料(温泉、鉄道など)	<ul style="list-style-type: none"> 建物(旧小学校施設)の老朽化 設備の更新がでない 春の開催、冬の閉鎖時の作業 ノウハウの継承 施設の入りにくさ(鍵貸出はややハードルが高い)
12	琴似屯田歴史資料室	かつて琴似神社境内には、屯田兵入植50年を記念して建てられた記念館と記念塔があったが、昭和29年に不審火により、記念館が焼失。記念塔は、老朽化のため平成10年9月に取り壊し、記念塔に代わるものとして、平成11年10月屯田兵の森に琴似屯田兵顕彰碑を建立し、琴似屯田歴史資料室にて、資料の保存・展示等を行っている。	住所: 西区琴似2条7丁目1-10 電話: 011-614-8245 開館日: 月・水、金の祝(祝日除く) 開館時間: 10:00~16:00 アクセス: 地下鉄東西線「琴似」11番出口から約350m ※ 西区役所分庁舎内	約2,000点	NPO法人札幌郷土文化推進センター 当番 1名	474人	平成7年4月 鉄筋コンクリート2階建の一部 82.23㎡ 西区	- テーマ性の高い展示(屯田兵) - 場所の興味深い - 地域住民の関わり(屯田兵子孫)	屯田兵入植に関する資料(軍服、文書、手帳など)	<ul style="list-style-type: none"> 展示スペース、通路の狭さ 展示設備(ケース)の老朽化 建物自体の入りにくさ
13	白石郷土館	白石郷土館は、白石区ふるさと会が白石の先人が築いた伝統と文化を次世代に引き継ぎたいという思いから、郷土館として2015年(平成28年(2016年))11月7日に開設。館内では、旧仙谷白石城主片倉十郎の家が移した明治4年から、白石が札幌市と合併した昭和25年までの記録を、パネルによる展示などで併せて紹介している。	住所: 白石区南郷通1丁目南8-1 電話: 011-841-9505(白石区総務企画課) 休館日: 土、日、祝、年末年始 開館時間: 9:45~17:15 アクセス: 地下鉄東西線「白石」直結 ※ 白石複合庁舎内	約70点	白石ふるさと会 管理人の常駐なし	-	平成28年11月設置 鉄筋コンクリート2階地下7階建の一部 75㎡ 白石区	- 新しい展示スペース - 展示の更新がでない - ニュースなどが旧仙谷白石につながる地域の歴史をわかりやすく伝える展示内容	白石のレンガ関連展示	<ul style="list-style-type: none"> 人員の確保(予算上難しい) 展示スペースがなく、新たな展示物を置く余裕がない 団体内に手入れの知識・技術を持った人員がいない

※1 本調査時における現地視察および各施設紹介資料等に基づいて記載

※2 ○印は平成30年に実施された各施設へのアンケートに基づく

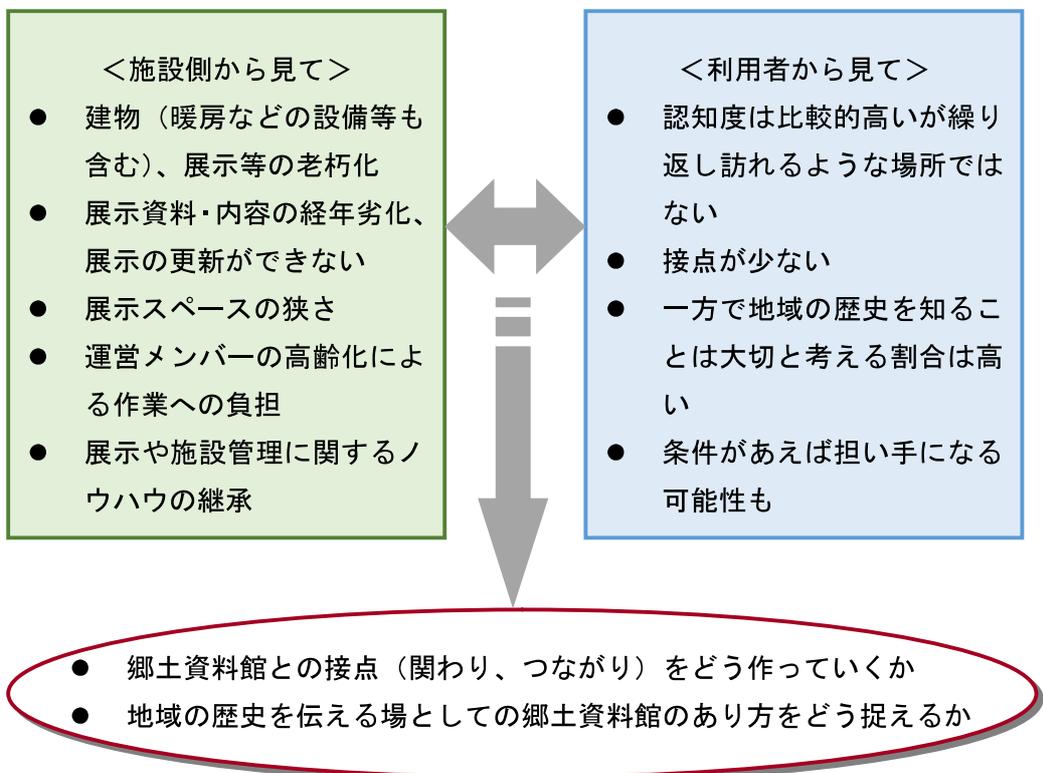
2. 現状と課題（利用者側から）

- R2年度に実施された市民インターネットアンケート調査結果（次頁以降に掲載）に基づき、利用者側から見た札幌市の郷土資料館の現状と課題について整理する。
- 札幌の郷土文化への関心について、「関心がある（16.3%）」「どちらかといえば関心がある（34.8%）」合わせて 51.1%と約半数となっている。また、郷土文化に関心を持ったきっかけは「住んでいた・今住んでいる地域だから（86.8%）」となっており、自分の住んでいる地域への関心は高いことがわかる。
- 郷土資料館の認知度については「知っている」が約4割、利用有無については「利用したことがある」が約6割となっているが、直近の利用日は「5年以上前」が約6割となっており、繰り返し訪れるような場所にはなっていないと考えられる。
- 郷土資料館の利用満足度については「満足した（17.5%）」「どちらかといえば満足した（41.7%）」合わせて 59.2%と約6割となっている。
- 運営の担い手になることへの関心については「関心がある（6.9%）」「どちらかといえば関心がある（30.4%）」合わせて 37.3%となっている。参加してみても良いと思う活動については「知人などから誘われたり頼まれたりして（32.7%）」「何らかの必要性を感じて自発的に（20.2%）」「講座や学習の場に参加して（19.6%）」となっている。
- また、担い手としての活動に参加する場合の条件としては「時間的、経済的にゆとりがあること（56.3%）」担い手を増やすために良いと思う取組みについては「無理なく活動できる内容にする（66.7%）」がそれぞれ他の選択肢に比べて高くなっており、自己の負担にならない範囲での関わりという点がポイントになると考えられる。
- 郷土資料館に望むこととしては「展示物・資料等の内容の充実」「ホームページなど郷土資料館の情報発信」「来館時のイベント行事や講座などの実施」が順に高くなっていった。



3. 札幌市の郷土資料館の現状と課題の整理

- これまで郷土資料館の現状と課題について主に施設側、利用者側の双方から見てきたが改めて整理する。
- 施設側の課題としては「建物・展示資料の老朽化」「展示スペースの狭さ」などいわゆるモノに関すること、および「運営メンバーの高齢化」「維持管理に係る（体力的）負担」「展示・管理に関するノウハウの蓄積・継承」「防犯に関する不安」などいわゆるヒトに関することがあげられた。
- 一方、利用者側から見た郷土資料館のイメージは「一度は行ったことがあるが繰り返し行く場所ではない」「何があるかわからない」など接する機会がない施設となっている。
- ただ、市民の郷土文化への関心、「住んでいた・今住んでいる地域」を大切にしたいとする認識はあり、「担い手」として郷土資料館に関わることについても「時間的、経済的にゆとりがあり」「無理なく活動できる内容」であればありうることもわかった。
- 以上を合わせて考えると、郷土資料館との接点（関わり、つながり）をどう作っていくか、また、それらを通じて地域の歴史を伝える場としての郷土資料館のあり方をどう捉えていくかが今後の取組みの方向性を検討していく上でのポイントと考える。



Ⅲ 先進事例ヒアリング調査

1. ヒアリング調査の概要

- II章で整理した郷土資料館の課題解決に向けた取組みの方向性の検討にあたり、札幌市内、市外の施設等へのヒアリングを行い、示唆を得た。
- ヒアリング対象の選定にあたっては、各施設等で先進的な取組を行っており、また、II章で出た課題について各専門的な視点からアプローチできる4つの施設・団体とした。

	所属	主なヒアリング内容
①	北海道大学総合博物館 教授 湯浅万紀子 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムと人との関わりの作り方 ・札幌市における郷土資料館、博物館のあり方、役割等 ・市内郷土資料館との連携・サポート等の可能性
②	北海道博物館 学芸主幹 鈴木琢也 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市における郷土資料館、博物館のあり方、役割等 ・資料の保管、寄贈への対応等について ・学芸員アドバイザー派遣等の可能性
③	だて歴史文化ミュージアム 学芸係長 黒田格男 氏 学芸員 蝦名未来 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・だて歴史文化ミュージアム コンシェルジュ、ボランティアの関りについて ・SNSを活用した情報発信について
④	NPO 法人ほっかいどう学 推進フォーラム 理事長 新保元康 氏 (元小学校校長、元空知 社会科教育研究会代表)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習における郷土資料館の役割、可能性(とくに学校教育との連携) ・札幌市における郷土資料館の活用可能性

2. ヒアリング調査結果（概要）

④北海道大学総合博物館

教授 湯浅 万紀子 氏（ミュージアムと人との関りを長年にわたり研究）

（ヒアリング内容）

- ・ミュージアムと人との関わりの作り方
- ・札幌市における郷土資料館、博物館のあり方、役割等
- ・市内郷土資料館との連携・サポート等の可能性

（ミュージアムと人の関わり）

- ・ 同じ地域で同じ時代を過ごした記憶を語り合う、語っていくきっかけになる場になる。それは子どものころに経験しておくのはとても良いことだと思う。
- ・ 教科書で習ったことを実際に博物館で実物を見ると自分の知識・経験として身につく。頭の中で持っていた体験を自分の知識の中に落とし込むことでより豊かに定着していく。
- ・ お年寄りにとってもミュージアムは居場所、同世代との、あるいは異世代交流の場となる。いろいろな年代の方の居場所の一つになっていけば良い
- ・ 北名古屋市に「昭和日常博物館」という施設がある。そこは地域全体で回想法、物を見ることで思い出して語り合うことで認知症予防につなげる、という取組みをまちぐるみでしている。
- ・ リタイアした世代の方のつながりが素晴らしく「新しい幼馴染に出会えた」との声も。会社などのつながりとは全くちがう、同世代を生きてきた仲間と出会い、生き生きと子供たちのため、地域のために何かをすることで力がわくとか、外に出ていこうという気持ちになる。その場の一つとしてミュージアムは機能することを改めて強く感じた。そういう意味では「モノを通して人々が出会っていく場」と感じる。
- ・ 居心地の良さだったり、自分の役割をそこに見いだせれば何も新しい施設である必要はない。

（ボランティアと運営について）

- ・ マネージしていくというか、一緒に見ていく役割が必要。そのあたりは職員の方の意識が必要。
- ・ 人が生き生きと楽しそうに伝えたい、共有したい、という気持ちを持っていることが大切。物も保管しているだけでは傷んでいく。
- ・ 元気なシニア世代がこれからもどんどん増えていく。無償の労働力とは見ないで、その方たちの居場所の一つと一緒に作っていきこうというレベルで協力していただける方を「サポーター募集」のような位置づけで募っていくと、あそこはいつも何か楽しそうなことが起こっている、といった認識になっていくのではないかな。
- ・ （北大博物館におけるボランティアの活動）
- ・ 職員の役割、ボランティアさんの役割をしっかりと分けて、ボランティアへの感謝、情報はフラットに伝えることなどを徹底
- ・ 展示解説グループというグループを作って、解説シナリオを作って、グループ内でリハーサルをして、立ち振る舞いを皆で見て、それでデビューをする、という仕組みになっている。
- ・ 館内を案内する人、展示解説をする人、その人の能力や希望でいろいろな関わり方ができるようにしている。

（博物館の役割、課題）

- ・ いろいろな方の語りを映像で残していくことも重要。モノだけ残っていてもストーリーがないと。
- ・ 「モバイルミュージアム」コレクションを都市の中に「遊動」させていく取組み。軽やかに回していくことで収蔵庫を少なくできる。

- ・ 「記憶の研究」でももちろん貴重な展示や標本を見た、ということはもちろんあるが、人との関りがとても多く語られている。
- ・ 学問的には「構成主義」といって、いろいろなバックグラウンドを持つ人たちが関わってその場の意味を作っていく。

(博物館の定義について)

- ・ ミュージアムの定義は社会の状況によって変わっているが、例えば日本では博物館法があるが、国立博物館はその範疇に入っていない。
- ・ ただ、全体的には資料を収集・保存して、調査・研究をして、そのプロセスを展示や教育を通して見せるというところは共通している。
- ・ 郷土資料館の場合もどの程度調査・研究の要素が入ってくるかによると思うが、3つの要素があればミュージアムと言って良いと思う。
- ・ 博物館法も見直されてきている。ICOMも定義の見直しを3年前ぐらいに日本で行って、まだ定義は定まっていないが、お互いの共同理解、社会的包摂といったことも入ってきており、ミュージアムに託される役割、担うべき役割も変わっていく、その中で郷土資料館の果たすべきミッションがあると思う。

(札幌市における郷土資料館の役割について)

- ・ 小中学生、子供たちの利用と、大人、とくに高齢の方の活躍の場、居場所としての機能が付加されると良いと思う。
- ・ 地域のことを知るの面白い。そういう面白さを知る場所の一つにもなると良い。
- ・ 観光客にとっては3~4日しかない旅程の中で、行くとしたら北海道博物館に行ってしまうと思う。そういう意味では地域の方をターゲットにして利用されることを目指していくのが良いと思う。
- ・ 例えば小学校の頃に利用してそこで良い体験をしたら中高で忙しくなっても大人になってからまた来るかもしれない。経験は積み重なっていくものなので、お年寄りにとってもそう。新たな幼馴染を作ったり、自分の家族ではないがお孫さんのような子供たちと出会う場になったりとか。
- ・ 来館者だけではなく、地域の方や職員にとってどのような意味があるか。



- ミュージアムの役割：「モノを通して人々が出会っていく場」子どもたちにとっては実物を見て知識・経験となる場所、大人、とくに高齢者にとっては同世代、異世代交流の場「新しい幼馴染に出会う」
- ボランティアの関わり：マネジメントが重要。職員の役割、ボランティアさんの役割をしっかりと分けて、ボランティアへの感謝、情報はフラットに。その人の能力や希望でいろいろな関わり方ができるように。
- 博物館の役割：いろいろな方の語りを映像で残していくことも重要。モノだけ残っていてもストーリーがないといけない。いろいろなバックグラウンドを持つ人たちが関わってその場の意味を作っていく。
- 札幌市の郷土資料館の役割：小中学生、子供たちの利用と、大人、とくに高齢の方の活躍の場、居場所としての機能が付加されると良い。地域のことを知る面白さを知る場所の一つに。地域の方をターゲットに。

②北海道博物館

学芸主幹 鈴木 琢也 氏（道内の歴史・文化・生活研究）

（ヒアリング内容）

- ・ 札幌市における郷土資料館、博物館のあり方、役割等
- ・ 学芸員アドバイザー派遣等の可能性

（札幌市における郷土資料館の役割、展示のあり方等）

- ・ 小さい施設がバラバラとあるので、本当はそれぞれ行ってみると面白いと感じるかもしれないが、存在自体がわかりにくい。
- ・ 一つ一つ特徴があると思うが、それがなかなか市民もそれがわからないというところは一番大きいと思う。何か一体で広報できるようなものがあれば良い。
- ・ 例えば可能かどうかはわからないが「札幌市博物館○○」といった形で全て分館のような名前で統一するとまとまりが出るかもしれない。開館時間などをもう少し合わせるといったこともできると良いか。
- ・ 例えば北陸の人たちが多く入植してそこに北陸の特徴がある鍬がたくさん残っているといったことがあればそれは展示したほうが良いと思うが、一般的などこにでもあるものも多いと思うので、そのあたりの展示の仕方は難しいと思う。埋蔵文化財は特色が出やすいが。
- ・ 屯田兵中隊本部に屯田兵関連の展示があるのはもちろん良いが、それより新しい時代のものなどを展示するのが良いのかどうか。特色のあるもののみを展示したほうがすっきりするような気はする。
- ・ 物を寄贈したいという依頼は多く、それはありがたい話だが収蔵庫にも限りがあり、何でもというわけにはいかない。現状だと判断ができない場合は全てお断りするか、全て受け入れるか、どちらかしかないと思う。

（ボランティアの役割について）

- ・ 本当は専門家が施設にいると一番良いのかもしれないが、最低限そこにある特徴的な展示については研修を受けて説明できるような形で、あとはそこにずっと住んでいる方であれば地域の昔の話などプラスアルファの話をする事ができる。

（郷土資料館へのアドバイス等の可能性について）

- ・ 例えば皆さんが集まったところで相談を受けたり、講座のような形で例えば屯田兵のお話をするとか、そういったことは可能かとは思う。あるいは接客や展示方法のレクチャーなどはうちでもできる。



- 郷土資料館の現状より：**一体的な広報**ができるものがあると市民の認知も高まるのでは。展示はできれば**地域に特徴的な展示**を行うと良い。一見一般的なものについてもじつは特徴的なものという場合もあるので慎重に
- 郷土資料館へのアドバイス等の可能性について：相談を受けたり、**講座**のような形で例えば屯田兵のお話をするとか、そういったことは可能かとは思う。あるいは接客や**展示方法のレクチャー**などは可能

③だて歴史文化ミュージアム

学芸係長 黒田格男氏、学芸員 蝦名 未来 氏

(ヒアリング内容)

- ・だて歴史文化ミュージアム コンシェルジュ、ボランティアの関りについて
- ・SNS を活用した情報発信について

(だて歴史文化ミュージアム ミュージアムコンシェルジュの取り組みについて)

- ・案内やミュージアムグッズの開発など、総合的にミュージアムに関わるボランティア団体を作りたいということで令和元年度に設立、今のところ登録者は 50 名いる。
- ・令和元年度は建物の掃除や展示資料の解説のトレーニングの機会を設けたり、ゴールデンウィークに迎賓館の建物の公開を行っている。
- ・最初の年はスタートだったのでいろいろこちらでリードする部分も多かったが、自由研究のイベントなどはコンシェルジュが中心になって企画してくれたものもあった。
- ・ミュージアムリニューアル前は迎賓館などを案内する「鉄の会」というボランティア団体などがあつた。その他いくつかの会があつたがそれらを統合した。
- ・メンバー募集をするときに少し若返りを図りたいという意図もあり、30 代～40 代の方を中心に世話人という形でお声がけした。その方たちが今も役員をしている。
- ・関心がありそうな方、スキルを持った方で実際に活動をしてくれそうな方男女問わず 10 人前後にお願いをした。元々ミュージアムにはあまり関わりがなかった方も。
- ・世話人はミュージアムコンシェルジュの中で中心的に活動をする人たち。最初の年は世話人が役員を務めて（任期 2 年）で継続して今も役員をしている方もいる。
- ・最初に集まったのは 35 人ぐらいだった。現在は少しずつ増えて 50 人ぐらい。年齢構成は下は 30 代から上は 70 代ぐらい。多いのは 60～70 代ぐらいの方。
- ・活動内容については、元年度については開拓記念館時代からの取組みを継続していくことと、解説ガイドはこちらから募って来ていただいた。自由研究イベントはコンシェルジュのほうからこういうことをやりたい、ということで声を上げてくれた。
- ・今のところ展示解説を全てコンシェルジュに任せるといことはしていない。コンシェルジュの皆さんは無料で展示を見ることができが、ガイドにあたってのポイント等のトレーニングがコロナになってからできてない状況。
- ・行く行くはコンシェルジュさんにそうした展示案内の部分も担っていただきたいと考えているが、まずはきちんとした養成のカリキュラムを作っていく必要がある、一朝一夕にできることではないので、計画的にやっていかなければいけない。
- ・ミュージアムコンシェルジュの Facebook ページも開設しており、基本的には副代表が更新している。その運用ももう少しいろんな方が関わるようにしたいとは考えている。
- ・まちづくりに貢献したいという観点を持った人もいたし、自分のスキルを活かしたいという人もいた。その場としてコンシェルジュという器ができた。
- ・自発的な心情があつて初めて成り立つので、我々としてはなるべくそうしたことにも沿いながら場所と機会を提供する、というところがミュージアムコンシェルジュクラブの本質と思っている。
- ・博物館「友の会」というものを作ることが多いと思うが、どうしても活動が限定的なイメージがある。そうではなくて、そうした枷を外したい、という意味も込めてコンシェルジュという名にしたと聞いている。ただ、逆にコンシェルジュの名前に身を引いてしまう方も中にはいる。
- ・コンシェルジュの募集は高校生以上としているので、高校生が来てくれたのはうれしい。学校ではない場での活動としてぜひ関わってもらいたい。
- ・まちのことを知りたくてもどうやって勉強すれば良いかわからなかったが、ガイドに加わることで勉強できたり、情報収集できるようになって楽しいと言ってくれる方もいる。

- ・ 今は細々としか活動できていない状況だが、新しい方が加わってくれて、自分の学びの機会や新しい活動の場にしてもらえるということが少しずつ出てきているので、そこをどうやって広げていくか、今後の課題と考えている。
- ・ 理想としてはやはり自立的に活動してもらいながら、事務局の人間がサポートしながら一緒にイベントを作っていく、というほうが会の人たちの満足度も高くなっていくし、会員の増加といったところにもつながっていくのではないかと考えている。

(ミュージアムの役割等について)

- ・ 博物館の役割を考えると、ネット社会においてはやはり現物を見る魅力、というところに求めるしかないと考えている。
- ・ 札幌の郷土資料館もこれだけ点在しており、設置年代も昭和がほとんどで数十年経っていることを考えると誰のための博物館なのか、ということをもっと集約していかないと、建物の耐用年数が来た時に役割をなくして終了、ということになってしまうのではないかと。
- ・ 指標となるのは入館者数だが、このコロナ下で来館者数が減っている状況ではやはり顧客満足度ということになると思う。これから人口減が続く中で入館者数の評価ということは続かない。ここを訪れる子どもたちにも一つでも「へえ〜」を持って帰ってもらえるかどうか。
- ・ 札幌市として主体的に、文化財保護など様々な観点から資料館をどうしていくかということを考えていく必要がある。
- ・ この DX の時代においてどうしても集約という形は進んでいくと思う。例えばどこかに物は集約していくとか、そうした方向は一つありうる。
- ・ (ミュージアムと人や地域との関わりについて)
- ・ 修学旅行に来た高校生に案内をした時によく感じるのは、今の子どもたちは地元の歴史を学ぶ機会が少ないということ。
- ・ 来館者数も数だけ見るのではなく、どんな人が利用しているのか、小学生の利用が少なければどういう人が来ているのか。例えば観光客なのか、帰省で戻った人が利用しているのか。どういう属性の利用者なのかを知って、そこからニーズを押し量るべき。
- ・ 札幌の資料館の今後を考えると、まず文化財の保存がどうなるのか、ということは心配になる。集約していくのか、その場にあるべきなのか。それを解決する道筋を思うとやはりどうやったら利用してもらえるかを考えていく必要がある。個人的にはやはり学校の学びの中で地域の歴史について知ってもらいたいと思う。

- ミュージアムコンシェルジュ :
- ・ **まちづくりの視点をもった若い世代が関わるような仕掛け**
- ・ メンバーのやってみたいことを行える仕組み (**自律的な活動**を事務局がサポート) づくりにより会員の満足度を高める、会員増につなげる
- ・ **自分の学びの機会や新しい活動の場**
- ・ 展示解説については丁寧なステップで
- ミュージアムと人・地域とのかかわりについて : **誰のための施設か、役割を明確に。**
入館者数のみが指標となる評価の在り方についても検討が必要。**学校の学びの中で地域の歴史について知ってもらうことは重要**

④ NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム

理事長 新保 元康 氏（元小学校校長、元空知社会科教育研究会代表）

（ヒアリング内容）

- ・ 地域学習における郷土資料館の役割、可能性（とくに学校教育との連携）
- ・ 札幌市における郷土資料館の活用可能性

（地域学習における郷土資料館の役割、可能性、課題）

- ・ 語り伝えられていないとか、わかる人がいなくなっているのではないかと。本当はリニューアルされていかなければいけない。ホームページなどと同じように更新されていく必要がある。中にあるものは同じでも、フレッシュさの演出が大事で、そうしないと骨董品の収蔵庫になっていて、陳腐化していくのではないかと。
- ・ 本来は学芸員がいて、資料の価値を多様な視点から当てて市民の皆さんに伝えていく、ということができると良い。
- ・ 今とつなげる企画などがあると訪ねることが面白くなるのではないかと。
- ・ 学校のなかに資料館を持っているところもある。私の記憶ではほとんどの小学校にそうした場所はあったと思う。
- ・ 先生方も資料館にだんだん行かなくなっているのは、授業としてはあるが、行っても先生が説明ができない、施設の方も案内できないという両方があると思う。
- ・ もう一つは学校の多忙化。学校外に出て学ぶということは時間がかかる。本当は体験的な学習は重要だがなかなかその時間はとれない。外に出かけることは減っていると思う。
- ・ 社会科見学などはあるが、歴史系の勉強に出かけるということは昔ほどは活発ではないと思う。
- ・ 学校ごとに教育課程（カリキュラム）を持っている。仮にその中に「うちの学校の4年生は9月に資料館に行く」といった感じで書かれていれば行ける。カリキュラムに組み込まれるかどうかというところがポイント。
- ・ 先生たちも地域の歴史を案内できなくなっていると思う。研修会も学校にはいろいろあるが、地域の歴史の勉強会はあまり聞いたことがない。授業研究というのは多いが。そもそも社会科は少ない。
- ・ 社会科を専門として指導をする先生の減少、ということはあると思う。昔は社会科の得意な先生が一人や二人学校にいたものだが、今はたぶんいないと思う。

- 郷土資料館の現状より：企画展などリニューアルされていく、**フレッシュさの演出**といったことが大切。例えば現在のエネルギー（北国の暖房）問題など、**今と昔の生活をつなげるような企画**などがあれば良いのでは。
- 地域学習における活用の可能性：現状では難しいと思う。理由は先生の多忙化、説明できる、教えられる人の不在。カリキュラムに校外学習を組み込むことが難しい状況など。社会科教育全体の課題でもある。

IV 課題解決に向けた今後の取組みについて

1. 取組みの方向性について

- いくつもの町や村の合併を経てできた札幌の歴史を鑑みて、各地にある郷土資料館はその地域の成り立ちや先人の努力や苦労を知るうえで非常に大切な場所である。
- しかし、その多くが利用者の減少、施設や展示の老朽化、管理者の高齢化など、施設の維持・運営にあたって、様々な課題を抱えている。
- 一方で、市民アンケート結果からは、住んでいる地域の歴史を知ることの大切さを認識し、郷土資料館の運営の担い手となる可能性についても見出すことができた。
- そのため、先進事例ヒアリングを通して、郷土資料館と利用者、また、担い手同士の連携など、様々な接点をどのように作っていくか、また、持続可能な運営を行っていくために今後郷土資料館にどのような変化が求められるか等について情報収集を行った。
- 以上に基づき、札幌市の郷土資料館の課題解決に向けて考えられる今後の取組みの方向性について、短期（1～2年）、長期（3年以上）に分けて整理した。

短期

- (1) 郷土資料館・地域の歴史の情報発信体制の充実
- (2) 郷土資料館の利用促進に向けた取組み
- (3) 持続可能な運営の仕組みづくり
- (4) 地域の歴史を記録する・伝える事業

長期

- (1) 地域の新たな居場所等としての郷土資料館の役割強化
- (2) 地域で郷土資料館を支える仕組みづくり
- (3) モノ→コンセプト・体験型への展示の更新
- (4) エコミュージアムとしての郷土資料館の展開

2. 展開事業案（短期）

（1）郷土資料館・地域の歴史の情報発信体制の充実

- 郷土資料館における PR 活動はポスターやチラシ配布が主であり、その他の効果的な広報・宣伝活動は行われていないのが現状である。また、各施設の収蔵品については令和 2 年度にデータベース化されたが、施設にウェブサイトやネットワーク環境等が十分に整備されていないため、運営側による有効活用を行う体制の構築が必要となっている。
- 効果的な広報・宣伝につなげるための方策として、市内の郷土資料館の総合的情報発信、PR の機会の創出等が考えられる。
- なお、令和 3 年度に公開された「北海道デジタルミュージアム」は、道内のミュージアムの施設情報や収蔵資料を網羅的に閲覧、検索できる入口（ポータルサイト）として今後注目が高まることが予想される。市内の郷土資料館においても登録を進めることは有用と考えられる。ただ、現状では概要紹介にとどまっておき、より各館の特色や日々の情報発信によって市民・来館者とのつながりを作っていくため、各館のウェブサイトの充実や SNS を活用した情報発信についても行っていくことが望ましいと考えられる。

1) 市内の郷土資料館の総合的・効果的な情報発信

◎ 「（仮称）札幌の郷土資料館」ウェブサイト、冊子等の作成

- ・各館のコンセプト（地域の歴史やそれに伴う特徴など）や関わる人などの顔が見える情報提供を行うことで利用者との接点を増やすことを目指す

◎ 市内の郷土資料館の PR 機会の創出

- ・例) 「れきぶんフェス」のような場に市内の郷土資料館関係者が集い、各館の紹介をする等、地域の歴史を PR する機会を作っていく

◎ 全館共通フォーマットのパネル作成

- ・現在、施設概要や基本情報を掲載したパネルはあるが、各館の特徴や見どころ等情報を充実させたパネルを作成、上記の PR の場等で活用する

◎ 各郷土資料館でのウェブや SNS 等を活用した情報発信

- ・例) 各館の一押し資料のデジタルデータ化→「北海道デジタルミュージアム」への登録・発信

2) 各郷土資料館の通信環境（WiFi 等）の整備

- ・上記を効果的に実施するため、可能なところから順に通信環境の整備を行う



北海道デジタルミュージアム
<https://hokkaido-digital-museum.jp/>

(2) 郷土資料館の利用促進に向けた取組み

- 以前は市内の郷土資料館にも大型バスなどを利用した小学生の団体での見学が行われていたが、現在はそうした動きはほとんど見られない。
- 自分たちの住む地域がどのように成り立ってきたのか、現地で実物を見ながら、また、詳しい方たちの話を聞きながら体験することは自分たちの住むまちに誇りを持つきっかけづくりとして非常に重要である。
- そこで、人気の根強いサタデーテーリングのようなスタンプラリーや子どもたちが興味を持つような謎解きイベント、親子で参加できるような夏休みの自由研究に対応したイベント、資料館のガイドつき見学会を開催するなどして、郷土資料館を訪れるきっかけづくりを進める。

1) 周遊企画の実施

- ・市内の郷土資料館をめぐるスタンプラリー（カードラリー）等の実施

2) 子ども向けイベントの開催

- ・謎解きイベント、夏休みの自由研究に対応したイベント等の実施

3) 市民向け資料館見学会の開催

- ・施設のスペース等考慮し、少人数でのガイドつき資料館見学会を開催。まち歩きとの組み合わせにより地域の歴史の理解促進（および将来的な担い手育成）につなげる



北海道遺産おさんぽスタンプラリー：豊平館、時計台など市内の歴史的建物等をめぐるラリー



豊平館自由研究企画：めりえてちょう（17の天井中心飾りの塗り絵）、豊平館ずかん（質問の答えを探しながら書き込むと一冊の図鑑に）

(3) 持続可能な運営の仕組みづくり

- 各郷土資料館へのアンケート・ヒアリングによると、「展示物の手入れ等に関するノウハウの継承」「他の施設等との交流の少なさ」などが課題としてあげられた。
- 人口減少社会において地域遺産の保全を進めるにあたっては、少数で守り続けることには限界があるため、保全のための取り組みやノウハウを可能な限りシェアしていくことが必要となる。
- そのため、多くの知見を持つ北海道博物館等の施設の協力を得ながら、学芸員による展示資料の取扱いや歴史に関する講座などを開催しながら、そうした機会を通じて、他の施設との人的ネットワークを構築していくことが望ましいと思われる。

1) 博物館等との連携による講習会の開催

- ・ 例) 北海道博物館のスタッフによる展示資料の取扱いに関する講座、歴史講座等の開催
- ・ 講習会を通じて郷土資料館の運営に携わる方々のスキルアップ、ノウハウ等の継承につなげる

2) 先進事例見学会の実施

- ・ 運営や展示方法の参考となる施設等の見学を通して各館の運営に生かすほか、各施設等との人的ネットワークを構築する

3) 上記を通じた市内郷土資料館関係者の情報交流促進

(4) 地域の歴史を記録する・伝える事業（アーカイブ作成）

- 各郷土資料館の関係者の高齢化、施設や展示の老朽化にともない、また、火災や地震などの災害に備える意味でも、それぞれの地域の歴史や例えば各施設に展示されている民具などの使い方などを記録することは急務であると考えられる。
- 日本を代表する産炭地であった空知地域では、振興局を中心に関係者への聞き取り等を行い証言集や動画の制作を積極的に行っている。

1) ストーリーの記録（例）語り部の動画、証言集の作成等）

2) 貴重な展示物等のデジタル化

- ・ 例) 写真・3Dデータの作成（北海道デジタルミュージアム等ウェブでの公開（普段見られないところが見られる等）、破損等のリスクへの備え）



左 日本遺産「炭鉄港」の証言：YouTube で公開
右 炭鉄港デジタル資料館

3. 展開事業案（長期）

（1）地域の新たな居場所等としての郷土資料館の役割強化

- ・ 展示してあるモノを見る場所→ 地域の高齢者や子どもまで多世代の居場所への変化に応じた郷土資料館の役割の強化

例) 北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」の取り組み

- ・ かつて使われていた道具などを多数展示するミュージアム
- ・ 館内の見学やワークショップ等を通じて高齢者の認知症予防につなげる「回想法」という取り組みを地域の事業者等と連携しながら進めている
- ・ 回想法が注目されるなか、歴史民俗資料館を訪れる高齢者（個人及び家族）、高齢者施設（団体）の見学が急増している。



回想法実施の様子
(昭和日常博物館 Web サイトより)

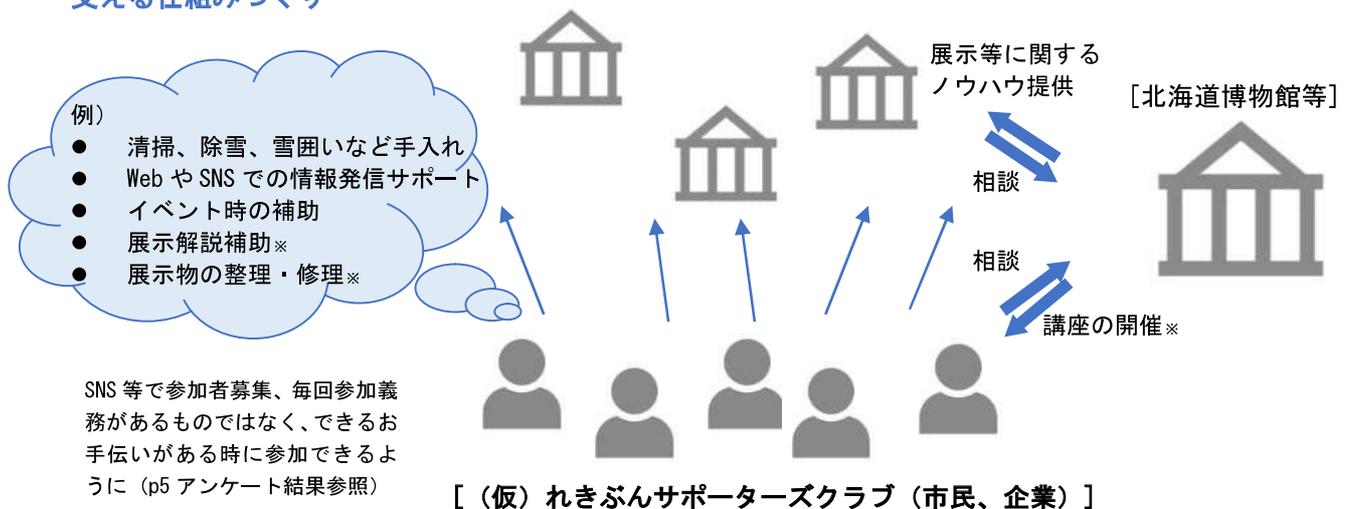
（2）地域で郷土資料館を支える仕組みづくり

1) 「(仮) さっぽろれきぶんサポータークラブ」の創設

- ・ 自分の住む地域、あるいは支援したい郷土資料館を様々な形（施設の維持管理、館の案内、展示品の整理※、など）で、また、自分の希望する時に支援できる仕組みづくり
- ※ 講習等を受けた「市民学芸員」のようなスキルを認定するしくみがあると望ましいか
- ・ 郷土資料館にとっては館を支える新たな担い手育成につなげる

できる時に
できることで
支える仕組みづくり

【各地の郷土資料館・記念館、歴史的建物など】



※ 例えば、一定の講座を修了した方に(仮) 市民学芸員資格付与、資格を持つ者が展示物の手入れ等の作業可能に、といった要件の必要性について要検討

(その他要検討項目)

・ 体制：持続可能な体制のあり方（任意団体を設立？会費、例会などがあるとハードルが高くなる傾向、5～6人ぐらいの世話人チームが望ましい (p12 伊達市事例参照)）

2) 学校や企業との連携

- ・子どもの時の実物に触れる体験は非常に重要であり、学校との連携により、地域の歴史を学ぶ機会を作っていく
- ・企業や学校等の協力を得て「モバイルミュージアム」を実施し、地域の遺産を地域全体で管理していく仕組みを構築していく

例) 東京大学博物館モバイルミュージアム

- ・モバイルミュージアムとは、博物館に収蔵されている学術標本を小型ミュージアム・ユニットに組み入れて、社会の様々な場所に展開・流動させる遊動型博物館のことで東京大学博物館が都内の企業等と連携して実践している。
- ・企業の応接室等に博物館の展示品を貸し出し、展示することで企業の魅力向上、博物館のPR等に資するほか、博物館の収蔵スペース不足解消にもつなげようという試み。
- ・学校と連携した「スクールモバイルミュージアム」も行われている。



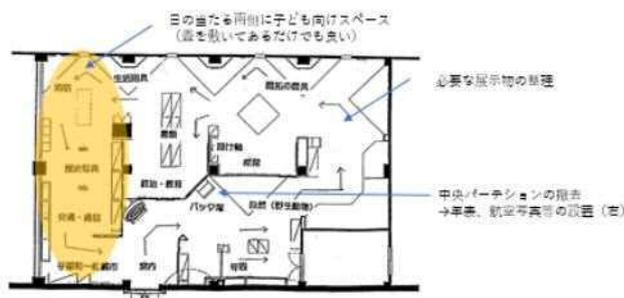
(東京大学博物館 web サイトより)

(3) モノ ⇄ コンセプト・体験型への展示の更新

- ・博物館の展示も従来の「見る」展示から「体験する」展示にシフトしている。例えば、体験重視（展示物に触ることができる等）の展示整備を行い、子供たち、あるいは親子での利用促進につなげる。

例) 手稲記念館における体験型展示の導入

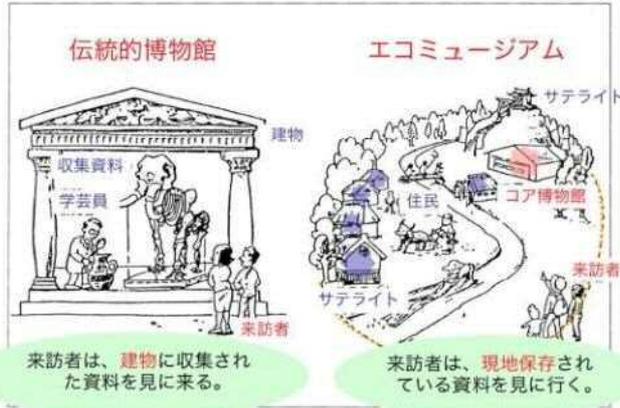
- ・決められた動線と（触れられない）見る展示から、体験型展示へ転換
- ・利用者がゆったり過ごせるスペースを多くとり、そこで例えば展示されている民具を実際に使用、季節に応じて、餅つき、蕎麦打ち、などを行う。
- ・体験にあたっては、使い方をよく知るお年寄りなどに協力を依頼、地域での多世代交流につなげる。
- ・短期的に導入可能なものとして、例えば地区全体の航空写真を床に貼ってその上に乗って鳥の目で地域の全体像を知る、といったことも考えられる。



(4) エコミュージアムとしての郷土資料館の展開

- ・エコミュージアムの考え方をもとに札幌の歴史の概観を知ることができるコア施設（または展示スペース）とサテライト（各郷土資料館）の役割を位置づけ、「まち全体」をミュージアムと捉え、それらをつないで各地域を巡りながら札幌の歴史や自然を体感できるような仕組みの構築により、住民の地域への愛着を醸成し、住民の地域社会への積極的な参加を促すことにつなげる。

※ エコミュージアムの概念図



(文化庁令和元年度文化財保存活用
地域計画研修会資料より)

文化財施設等保全事業について

令和4年6月9日現在

1. 概要

文化財課所管の文化財施設、郷土資料館について、保全計画に基づいた計画的な保全改修を実施する事業。耐震化未実施の施設については、耐震診断を実施し、保全改修にあわせて耐震改修を行う。

※ 耐震改修予定施設：清華亭(R5～6)、旧黒岩家住宅(R7)、琴似屯田兵村兵屋跡(R11)
新琴似屯田兵中隊本部(R13)

2. 経緯

これまで、豊平館や旧永山武四郎邸のように個別に事業化したものを除き、各施設における修繕は、予算の範囲内で事後対応を行ってきたが、文化財施設の適切な保存のためには、予防的修繕が重要であるという認識のもと、平成29年度に「文化財施設等保全事業」として事業化した。

平成31年度までに一部を除き文化財施設等の保全計画を策定し、修繕の緊急度や予算の平準化を考慮した全体の年次計画を取りまとめた。

令和2年度には、耐震化未実施の施設の耐震改修を事業として新たに位置付けたほか、対象を文化財課所管の郷土資料館まで広げることとした。

令和3年度には、首里城跡での火災をふまえ、文化庁では防火対策ガイドラインを策定し、文化財特有の燃焼特性（脆弱性）を理解し、文化財の特性に応じて個別に総合的な防火対策を講じるよう求めているため、国指定重要文化財の防火対策強化も取り組んでいるところである。

3. これまでの実績

平成29年度： 保全計画策定（八窓庵、新琴似屯田兵中隊本部）

平成30年度： 過去に策定済みである保全計画の時点修正（時計台、豊平館、琴似屯田兵村兵屋跡、旧永山武四郎邸、清華亭、旧黒岩家住宅）

令和元年度： 保全計画策定（八窓庵（一部）、新琴似屯田兵中隊本部（一部）、旧三菱鉱業寮）及び全体計画の策定

令和2年度： 保全計画策定（豊平館付属棟、札幌村郷土記念館）
計画に基づく修繕実施（豊平館、八窓庵ほか8件）
耐震診断（清華亭）

令和3年度： 計画に基づく修繕（旧永山武四郎、新琴似屯田兵中隊本部ほか5件）
耐震基本設計（清華亭）

4. 令和4年度の計画

修繕		
	施設名	概要
	時計台	暖房機器更新・樹木剪定・照明器具更新
	豊平館	外部修繕（正面ポーチ柱劣化部修繕）
	八窓庵	庭園整備
	旧永山武四郎邸	外部修繕及び建具調整（花台、開閉窓）
	旧黒岩家住宅	外壁修繕（下見板及び換気口修繕、防腐処理）
	札幌村郷土記念館	照明器具更新
耐震		
	清華亭	耐震改修実施設計（補強および保全改修）
	黒岩家住宅	耐震診断
展示		
	清華亭	展示物ほか計画検討及び実施設計

5. 今後の予定

令和5年度： 清華亭改修工事、清華亭展示物工事、計画に基づく修繕、旧黒岩家住宅耐震基本設計、

令和6年度： 黒岩家住宅耐震基本設計、黒岩家住宅展示物ほか計画検討及び実施設計、計画に基づく修繕、郷土資料館事後修繕、

※ 詳細は別添資料7参照

6. 課題

・改修工事について

耐震改修工事は、数か月～1年程度の休館が必要になる見込みであり、事前調整、周知、休館中の対応（代替展示等）について検討する必要がある。

また、工事では、壁を解体して補強するなど、大掛かりな改修になることが見込まれるため、文化財的価値を損ねることなく、可能な限り既存材料を使用するなどの対応が求められる。

清華亭耐震改修工事 概略工程表

清華亭耐震改修工事													
工事工程	工事工期：	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月			
		着手								完了	完了	完了	
共通	共通工事	準備工事										完了検査等	
共通	仮設工事	歩道養生 保存小屋、仮設事務所ほか										仮設物撤去	
外部	仮設工事	外部足場架設										足場解体	
外部	外壁		雨水養生 外壁-下見板取外し(番付保存)									外壁-下見板の復原(一部更新)	
内部	新設基礎+土台	床-取外し(保存) 床下基礎工事											
外部	土台取替・柱脚金物		土工事-鉄筋-型枠-コンクリート打設-養生										
外部	土台取替・柱脚金物			腐食土台の取替(部分ごと)									
内外部	耐震補強工事(耐力壁)												
内部	小屋裏補強工事												
外部	屋根工事												
外部	煙突												
設備	電気設備工事												
設備	機械設備工事												
設備	外部機械設備工事												
外構	外部工事												

文化財施設等保全事業 想定スケジュール

		2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	
新築年 前回改修年	経過年数 実施内容													
		文化財	◎ 清華亭	1880	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149
1978	42			43	44	45	46	1	2	3	4	5	6	6
	耐震診断		基本設計	実施設計	工事(12ヶ月)				樹木剪定					
				展示計画・設計										
◎ 旧黒岩家住宅	1872		148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159
	1985		35	36	37	38	39	40	1	2	3	4	5	6
				耐震診断	基本設計	実施設計	工事(10ヶ月)							
				外壁部分修繕		展示計画・設計								
◎ 新琴似屯田兵 中隊本部	1886		134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	144
	1972		48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
			外壁部分修繕		外壁部分修繕				外壁部分修繕	耐震診断	基本設計	実施設計	工事	
◎ 旧永山武四郎 邸	1877	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	
	2005	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
			外壁部分修繕				外壁部分修繕							
(旧三菱鉱業寮)	1937	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	
	2018	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
				外壁部分修繕				外壁部分修繕						
◎ 琴似屯田兵村 兵屋跡	1874	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	
	1971	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	1	2	
							耐震診断	基本設計	実施設計		工事			
								展示計画・設計						
◎ 豊平館	1880	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	
	2015	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	1	
	保全計画(付属棟)		外壁部分修繕	電気設備修繕				外壁部分修繕			外部改修実施設計	工事		
◎ 八窓庵	1918※	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	112	
	2008	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
	外壁部分修繕		庭園設備修繕	外壁部分修繕	警備小屋修繕									
◎ 時計台(内部)	1878	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	
	1998	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	
						保存活用計画		実施設計	展示設計	工事				
										休館				
時計台(外部)	1878	142	143	144	145	146	147	149	150	151	151	152	153	
	2018	2	3	4	5	6	7	9	10	11	1	2	3	
				防災対策基本検討		防災対策工事(軽)	実施設計			工事				
郷土資料館	札幌村郷土記念館(1976)	保全計画		照明更新		事後修繕		50年						
	つきさつ郷土資料館(1941)		80年			事後修繕								
	手稲記念館(1969)		照明更新	事後修繕		事後修繕					60年			
保全計画に基づく修繕	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	適宜実施	
備考	赤れんが庁舎	工事												
	その他	アクションプラン2019(計画期間:2019~2022)				アクションプラン2023(計画期間:2023~2027)					冬季オリンピック?			

展示計画・設計実施箇所		No.	1
場所	【屋外】正門		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・開館及び閉館表示の検討（作成・設置は別業務） ・門が開いている時も開館中であることを示す型式とする。 ・英語併記とすること ・自立型又は門吊り下げ式を想定（要検討事項） 		
写真等			
			

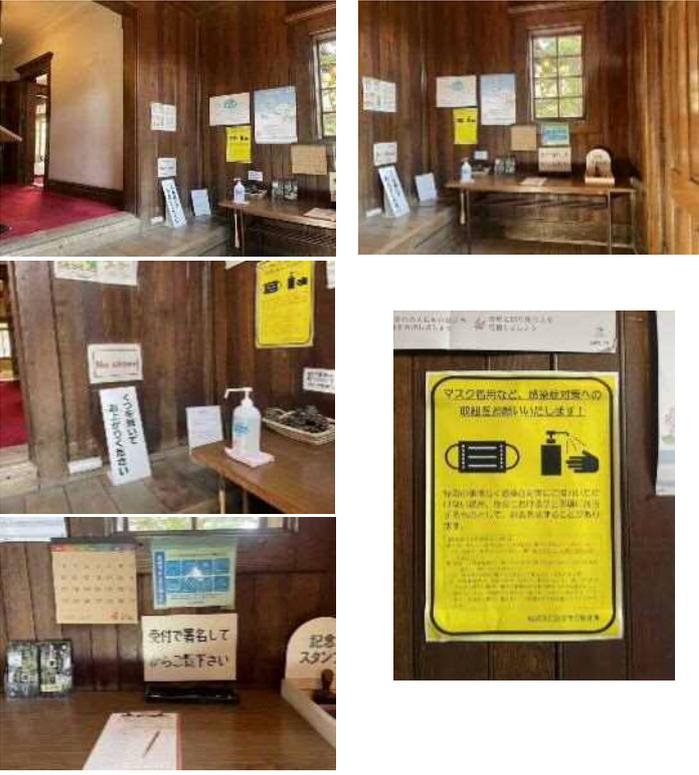
展示計画・設計実施箇所		No.	3
場所	【屋外】石碑横		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の解説表示スタンドデザイン検討（作成・設置は別業務） ・固定式とし、設置箇所は除雪作業の障害にならない位置とする。 ・サイズは任意とし、英語併記とすること。 ・説明文を作成すること。 		
写真等			
		参考イメージ	

展示計画・設計実施箇所		No.	2
場所	【屋外】敷地フェンス		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・「清華亭」入口誘導表示 計2箇所検討（作成・設置は別業務） ・入口の正門まで誘導案内するための表示。 ・英語併記とすること。 ・フェンス（柵）吊り下げ式を想定、既設誘導板との兼ね合いについて要検討 		
写真等			
			

展示計画・設計実施箇所		No.	4
場所	【屋外】玄関横		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・「清華亭」入場注意喚起表示（作成・設置は別業務） ・既存物は劣化が進行しているため、新たに作成する。 ・サイズは任意、英語併記とすること。 ・既存デザインを踏襲する必要なし、ビクト表示でも可 		
写真等			
			

6

7

展示計画・設計実施箇所		No.	5
場所	【館内】玄関		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・入館時の案内および注意事項を解り易く表示する。 ・表示は4枚程度を想定し、壁面付けまたは卓上設置の望ましい形式とする。（作成・設置は別業務） ・サイズは任意とし、英語併記とすること。 ・現状の案内時における課題について現地警備員からヒアリングを実施し、設計に反映させること。 		
写真等			
			

展示計画・設計実施箇所		No.	6
場所	【館内】廊下		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の案内表示スタンド1基の更新。（作成・設置は別業務） ・既存のスタンドを活用し、プレート部分を差し替え。 ・表示内容は平面図にこだわらず、入館時に最初に見る説明パネルとしてふさわしい内容を新規に作成し、英語併記とすること。 		
写真等			
			

展示計画・設計実施箇所		No.	7
場所	【館内】洋間		
要求性能	<ul style="list-style-type: none"> ・◎「清華亭の概要」他解説パネル9枚の更新検討（現状 600×400 計9枚） ・既存什器の活用は必須条件ではなく、別の展示手法による改善案についても検討する事。説明内容はそのままとし、英語併記とする。サイズは任意とする。 ・◎「清華亭」解説パネル1枚の新規作成検討（設置位置及び説明文作成を含む） ・洋室内展示物についてパネル展示手法や展示の掲示位置及び順番についても検討をおこない、洋室内にて最適な展示計画を立案する事。（作成・設置は別業務） 		
写真等			
			

